

# カリキュラムブック

CURRICULUM BOOK FOR NURSING STUDENTS

2023



久留米大学医学部看護学科

## 2023年度 学年暦

月	日	曜日	学年	事項
4	1	土	1年生	入学式
	3	月	1年生	新入生オリエンテーション (4/3、4/4、4/5、4/6)
	3	月	2・3・4年生	新年度オリエンテーション
	4	火	2・3・4年生	1学期授業開始
	5	水	1年生	医学部学友会主催 新入生歓迎会 クラブ紹介
	7	金	1年生	授業開始
	10	月	全学年	健康診断 (4/10、4/11、4/13、4/14)
	28	金	全学年	創立記念日 ※通常授業あり
5	20	土	全学年	補充講義日
	23	火	2年生	解剖体慰霊祭
	29	月	4年生	補充講義日
	30	火	4年生	1学期定期試験 (5/30～6/2)
6	6	火	4年生	1学期追・再試験 (6/6～6/8)
	12	月	4年生	総合実習 (6/12～6/23)
7	1	土	1・2・3年生	補充講義日
	19	水	1・2・3年生	補充講義日 (7/19、7/20)
	21	金	1・2・3年生	1学期定期試験 (7/21～7/28)
	31	月	全学年	夏季休暇 (7/31～9/1)
8	1	火	1・2・3年生	1学期追・再試験 (8/1～8/4)
9	4	月	1・2年生	2学期授業開始
	11	月	3年生	専門実習 (9/11～3/1)
10	27	金	1・2年生	あのか祭 (10/27前夜祭～10/30) ※休講日 (10/27、10/30)
11	11	土	1・2・3年生	補充講義日
	16	木	3・4年生	卒業論文発表会
12	4	月	2年生	療養生活支援実習 (12/4～12/15)
	25	月	全学年	冬季休暇 (12/25～1/5)
1	26	金	1年生	戴帽式 ※予行日：1/25
	31	水	1・2年生	補充講義日 (1/31、2/1)
2	2	金	1・2年生	2学期定期試験 (2/2～2/15)
	20	火	1・2年生	2学期追・再試験 (2/20～2/27)
3	4	月	1年生	生活支援実習 (3/4～3/8)
	11	月	全学年	春季休暇 (3/11～3/29)
	21	木	4年生	卒業式

# 目 次

久留米大学の建学の精神 .....	2
久留米大学の基本理念、看護学科教育目的、看護学科教育目標 .....	3
<b>【2022 年度以降入学生】</b>	
カリキュラム .....	7
履修の手引き .....	10
履修及び試験に関する細則 .....	15
履修表 .....	17
授業科目、科目責任者及び単位数（第 1・2 学年） .....	20
履修モデル .....	22
カリキュラムマップ .....	24
シラバス	
授業科目一覧（シラバス目次） .....	30
科目ナンバリング .....	31
<b>【2021 年度以前入学生】</b>	
カリキュラム .....	107
履修の手引き .....	110
履修及び試験に関する細則 .....	115
履修表 .....	117
授業科目、科目責任者及び単位数（第 3・4 学年） .....	120
履修モデル .....	122
カリキュラムマップ .....	124
シラバス	
授業科目一覧（シラバス目次） .....	130
科目ナンバリング .....	131
オフィスアワー .....	163

## 建学の精神

### 国手の矜持（ほこり）は常に仁なり

「国手」は本来名医の意味で使われますが「国中ですぐれた名人」の意義があり、「矜持」は自信と誇りを持ち、自身を抑制しながら堂々と振る舞うことで、「仁」は「礼にもとづく自己抑制と他者への思いやり」を意味しています。

大学の原点、それは“建学の精神”にあります。  
その言葉には、創設時の熱い思いが溢れ、現在の教育・研究の指針にもなります。



久留米大学の前身、九州医学専門学校は、当時不足していた医療分野での実践的人物の育英という地域ニーズに応じて1928年に設立されました。伊東祐彦校長は、第1回の講義で次のことを述べています。

「諸君が将来医者になって、余暇に山登りをしたとする。途中の一軒家に病いに苦しむ老婆の姿がある。君ならどうする。その時、そしらぬ顔してゆくか、専門が違うとか、診断の器具がないからと、逃げるか。それでは医者ではない。聴診器がなくとも、薬がなくとも、手があり、目があり、口があるじゃないか、そばに行って少しでもその苦痛を和らげるのが本当の医者だ。」（久留米大学50年史より）

この話は医師を目指す学生の胸に深く刻まれ、本学の建学の精神の土台となりました。

# I 久留米大学の基本理念

久留米大学は、真理と正義を探求し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする。

## II 看護学科教育目的

久留米大学医学部看護学科は、豊かな人間性と倫理観を培い、看護の実践・教育・研究を推進し、人類普遍の生きる力に光を与え、広く社会的使命を果たせる人材を育成する。

## III 看護学科教育目標

- 1 人間の個別性を尊重し、身体的・心理的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
- 2 生命の尊厳に基づく倫理観を備え、人々の権利を尊重・擁護する態度を養う。
- 3 人々の健康問題を科学的根拠に基づき分析・判断し、実践に必要な知識・技術・態度の基礎を養う。
- 4 自ら看護の現象を探究し、看護学を発展させることのできる能力を養う。
- 5 保健医療福祉の向上のために、他領域の専門家と協働し、必要に応じて調整的な役割を果たす能力を養う。
- 6 社会情勢や医療の動向に対し、看護が担うべき役割をとらえ、将来、国際社会に貢献できる能力を養う。

シラバス  
(2021年度以前入学生)

## 授業科目一覧 (シラバス目次)

人間と健康 (こころの構造とはたらき)		看護の実践 (臨地実習)	
臨床心理学	132	療養生活支援実習 I	146
人間と健康 (健康と健康障害)		療養生活支援実習 II	147
保健医療統計学	133	療養生活支援実習 III	148
保健医療福祉行政論	134	母子健康支援実習	149
看護の実践 (看護の基本)		小児療養生活支援実習	150
看護学概論 II	135	高齢者生活支援実習	151
健康教育方法論	136	在宅生活支援実習	152
看護過程 II	137	総合実習	153
		地域生活支援実習	154
看護の実践 (対象理解と看護活動)		看護の統合 (研究)	
母子健康支援論	138	研究 II	155
療養生活支援論 III	139	研究 III	156
療養生活支援論 IV	140	看護の統合 (看護の発展)	
療養生活支援論 V	141	看護管理	157
小児療養生活支援論	142	看護総合演習	158
在宅看護論 II	143	がん看護学	159
地域看護活動論	144	多職種連携教育	160
地域看護技術演習	145	最先端の医療と看護	161
		地域看護管理論	162

## 科目ナンバリングコードについて【2021年度以前入学生適用】

科目ナンバリングコードは科目に学問分野、学習段階、順序等を示す番号を付し、教育課程の体系性を示すものである。本学科では以下のとおり各科目をナンバリングしている。

型式	内容	看護学科
ABC アルファベット 3文字	学問分野の区分	NUS (Nursing Science) : 看護学 PHN (Public Health Nursing) : 公衆衛生看護学 CLP (Clinical Psychology) : 臨床心理学 SBM (Social Behavioral Medicine) : 社会行動医学系
1 数字1桁	学修レベル	1 (入門・導入・啓発・初級) 2 (基本・総論・中級) 3 (発展・応用・上級) 4 (学士課程最終)
2 数字1桁	授業形態	1 (講義) 6 (オンディマンド) 2 (演習) 7 (研究指導・論文) 3 (外国語) 8 (他大学単位互換) 4 (実習・実験・実技) 9 (海外研修・留学) 5 (フィールドワーク・学外) 0 (その他)
3 数字1桁	学問分野小分類	・看護学 (NUS) 1 (共通) 6 (母性看護学) 2 (基礎看護学) 7 (精神看護学) 3 (成人看護学) 8 (在宅看護学) 4 (老年看護学) 9 (統合) 5 (小児看護学)  ・看護学 (NUS) 以外の教養科目、医学系科目等は久留米大学学問分野小分類に準ずる。
4 数字1桁	科目番号	系統的な科目の順序性を示す (単独科目は全て1)。 なお、教養科目などは久留米大学科目番号に準ずる。
DE アルファベット 2文字	開設部門	全てMN (医学部看護学科)
F 英数字1文字	卒業要件類別	1 (1年必修科目) 6 (3年選択科目) 2 (1年選択科目) 7 (4年必修科目) 3 (2年必修科目) 8 (4年選択科目) 4 (2年選択科目) 5 (3年必修科目)



科目名 ナンバリングコード	臨床心理学 CLP2111MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	非常勤講師 高松 真理				
科目担当者	医学部看護学科 舞弓 京子、福浦 善友、松島 亜希子 非常勤講師 宮崎 英義				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 臨床心理学における対人理解と援助関係形成及び援助の方法を学習し、看護の実践場面に活用できる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床心理学の重要概念について理解し、心理的健康についての視野を広める。</li> <li>2) 主たる心理検査について理解し、心理的アセスメントの視点を得る。</li> <li>3) カウンセリングの基本的な方法について説明し、実践できる。</li> <li>4) 心理療法の目的及び代表的な立場・技法について説明できる。</li> </ol>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回  第8回 第9回 第10回 第11・12回 第13・14回 第15回	臨床心理学の歴史 臨床心理学の視点 心理検査① 知能検査 心理検査② 性格検査 描画法 心理療法のいくつかの立場 話の「聴き方」…カウンセリングの考え方を活かす 発達障害支援をめぐる 面接について 感想・質問を受けて 演習について 演習 演習 総括	舞弓 【講義】 高松 【講義】 高松 【講義】 高松 【講義】 宮崎 【講義】 高松 【講義】 高松 【講義】  高松 【講義】 宮崎 【講義】 高松 【講義】 } 舞弓・福浦・松島・ 高松 【演習】 高松 【講義】	・看護者としてのみならず、自身のこととしても授業内容についての考えを深めた後翌回に臨まれることを強くお勧めします。「私だったら…」と考えることが理解を深めます)  ・演習については、手順と目的を事前にしっかり理解した後臨んでください。	各 15 分             20 分	
テキスト	資料配布。				
参考書	高松真理；対人援助を心理職が変えていく，遠見書房，2022 福島哲夫；面白くてよくわかる！臨床心理学，アスペクト，2009				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） レポート（10%）	授業内容の理解度について正答率等で評価する。 授業中及び演習後に課すレポート（授業内容に関してどの程度考えを深めたか）も評価対象とする。				
課題（レポート等）	に対するフィードバック 授業の中で全体フィードバックを行います。				

科目名 ナンバリングコード	保健医療統計学 SBM2112MN5	必修科目	3年次 1学期	講義	2単位	
科目責任者	医学部看護学科 准教授 梶 勇三郎					
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 保健医療福祉活動を展開するために必要な情報の収集およびアセスメントの仕方、基本的なデータ解析の方法について修得し、エビデンスに基づいた活動を展開するための情報リテラシーと統計リテラシーを身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 保健統計調査の現状や社会動向の特徴を理解することができる。</p> <p>2) 要約統計量の意味、データに応じた適切な解析法の選択と結果の解釈ができる。</p>					
授業計画						
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
第1～2回	人口統計（静態統計・動態統計・健康指標の動向）	梶【講義】	【第1～5回】 各種統計調査から把握できる社会動向の特徴の復習 【第6回】 エクセルの関数とグラフ機能の予習 【第7～15回】 データ解析方法に関する予習と統計ソフト（JMP）を用いたデータ解析の復習	30分		
第3～4回	保健統計調査（基幹統計・その他の統計調査の動向）	梶【講義】		30分		
第5回	保健統計調査（医療経済統計の動向、KDB、NDB）	梶【講義】		30分		
第6回	記述統計量の特徴、図表の活用	梶【講義】		30分		
第7～8回	カテゴリカルデータの解析	梶【講義】		30分		
第9～10回	連続変数の解析と多群間の比較	梶【講義】		30分		
第11回	線形回帰分析	梶【講義】		30分		
第12回	層別解析と多変量解析	梶【講義】		60分		
第13回	多変量解析（線形性・正規・等分散の確認、非線形関係）	梶【講義】		60分		
第14回	多変量解析（効果修飾、変数選択、不均一分散）	梶【講義】		60分		
第15回	多変量解析（ロジスティック回帰分析）	梶【講義】		60分		
テキスト	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 2022-2023			MEDIC MEDIA	2022年	
参考書	柳川 堯 他	新 看護・リハビリ・福祉のための統計学		近代科学社	2021年	
	竹内正弘 監訳	ハーバード大学講義テキスト生物統計学入門		丸善株式会社	2003年	
	内田治 他	JMPによる医療系データ分析 第2版		東京図書	2018年	
	内田治・平野綾子	JMPによるデータ分析 第3版	東京図書	2020年		
	内田治 他	JMPによる医療・医薬系データ分析 第2版	東京図書	2021年		
	吉田寛輝	JMPによる医療統計	アトムス	2022年		
成績評価						
方法（割合）	基準					
筆記試験 （100%）	到達目標の達成度を正答割合で評価する					
課題（レポート等）に対するフィードバック						

科目名 ナンバリングコード	保健医療福祉行政論 SBM2213MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位	
科目責任者	医学部看護学科 准教授 梶 勇三郎					
科目担当者	非常勤講師 土井 巧 (朝倉市役所)					
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 保健医療福祉行政のしくみや制度の変遷および改革の方向性を理解し、行政における看護職に期待される役割と施策化について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 公衆衛生政策の変遷と保健医療福祉行政のしくみ及び財政について理解し、それらが直面している課題とその対応案について自らの考えを述べることができる。</p> <p>2) 保健医療福祉計画の策定プロセスと評価方法について理解できる。</p>					
授業計画						
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間		
第1～2回	保健医療福祉行政のしくみと役割(国際協力含む)	梶 【講義】	【第1～15回】 1) 保健医療福祉制度に関し た報道に耳を傾け、関連づ けながら学習する。 2) 居住地の広報紙や保健医 療福祉計画を閲覧する。 3) 社会福祉と社会保障の講 義内容と関連させながら学ぶ。	60分		
第3回	財政のしくみと予算	梶 【講義】		60分		
第4回	社会保障制度の現状と財政	梶 【講義】		60分		
第5回	人口減少社会と社会保障政策	梶 【講義】		60分		
第6～7回	医療提供体制と医療制度のしくみ	梶 【講義】		60分		
第8回	介護保険制度と自治体の役割	梶 【講義】		60分		
第9回	特別講義	特別講義講師【講義】		60分		
第10回	健康政策の進め方	梶 【講義】		60分		
第11～12回	保健医療福祉計画の策定プロセスと評価	梶 【講義】		60分		
第13回	保健事業の企画・立案	梶 【講義】		60分		
第14回	保健事業の企画・立案・実施の実際	土井 【講義】		60分		
第15回	保健事業の企画・立案演習 (グループワーク)	梶 【演習】		180分		
テキスト	医療情報学研究所 編集	公衆衛生がみえる2022-2023		MEDIC MEDIA	2022年	
参考書	野村陽子/加藤典子 編	保健医療福祉行政論		メヂカルフレンド社	2022年	
	椋野美智子 田中耕太郎	はじめての社会保障 第20版		有斐閣アルマ	2023年	
	藤内修二 著者代表	保健医療福祉行政論 第5版	医学書院	2021年		
	近藤尚己	健康格差対策の進め方	医学書院	2016年		
成績評価						
方法 (割合)	基準					
筆記試験 (90%) 受講態度 (10%)	<p>到達目標の達成度を正答割合で評価する。</p> <p>保健事業の企画・立案演習では、①グループで協同して行っていること ②企画する根拠、具体的な達成目標およびその評価指標が示されていること ③実施内容は具体的で実現可能性があること の3つの基準で評価する。</p>					
課題 (レポート等)	に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	看護学概論Ⅱ NUS3129MN7	必修科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 看護理論家の看護の対する考えおよび臨地実習の体験をとおして、これからの保健医療福祉分野における看護の独自性について再考する。</p> <p>到達目標 1) 看護の先人達が提唱した看護理論の特徴について説明できる。 2) 看護理論家が提唱する看護の考え方について臨地実習での体験と関連させながら看護を深める。 3) 看護の独自性・専門性について説明し、これからの看護の発展について考える。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	ガイダンス、看護理論の歴史と動向、看護理論家の理論の概要	加悦【講義】	シラバス確認、資料復習	20分	
第2回	F・ナイチンゲールの看護の分析と看護の実際について	加悦【講義】	学習内容に関する予習	20分	
第3回	看護理論の分析方法と看護実践の活用	全員【講義・演習】	資料復習	20分	
第4・5・6回	理論家から再考する看護<GW>: 内容;人間・健康・環境・看護における対象の理解(観察)、自立とは、セルフケアとは、人間対人間の理解、人間対看護の理解、看護実践過程とは、看護実習における看護の実際の再考、これからの看護 理論家:①V・ヘンダーソン②ペプロウ③ジョイス・トラベルビー④ドロセア・E・オレム⑤シスター・カリスタ・ロイ⑥オーランド	全員【講義・演習】	理論家の文献検索 グループ課題資料作成	30分 毎30分	
第7回	課題発表:看護理論家の特徴	全員【講義・演習】	成果報告書作成	30分	
第8回	看護に求められること まとめ	加悦【講義】			
テキスト	その都度、資料を配布する。				
参考書	F・ナイチンゲール著、湯楨ます他訳:看護覚え書、現代社 V・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 筒美 真優美 編:看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2版、2020				
成績評価					
方法(割合)	基準				
レポート(80%) 受講態度(20%)	レポート課題について具体的に述べられていること。課題の達成度をポイント化して評価する。 レポートの提出状況。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	グループワークの記録、個人レポートにコメントして返却する。				

科目名 ナンバリングコード	健康教育方法論 NUS2219MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 河原田 康貴				
科目担当者	医学部看護学科 益守 かづき、舞弓 京子、佐藤 祐佳、加藤 陽子、草場 知子、福浦 善友、松島 亜希子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 健康レベルやライフステージごとの健康問題と健康教育の特徴、健康教育における企画・実践・評価の方法について学習し、演習を通して理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 健康教育の概念、諸理論、方法論について理解できる。</p> <p>2) 健康教育の対象となる個人や集団の発達段階や健康レベルに応じた健康教育の展開について理解できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	ガイダンス、健康問題のアセスメント	河原田【講義】	復習を中心に、講義の説明や配布資料を見直し、ノートにまとめる。さらに文献などを用いて、理解を深める。	各回 30分 以上	
第2回	個別健康教育の方法	河原田【講義】			
第3回	周産期における健康教育①	加藤【講義】			
第4回	周産期における健康教育②	加藤【講義】			
第5回	小児期における健康教育①	益守【講義】			
第6回	小児期における健康教育②	益守【講義】			
第7回	成人期における健康教育①	河原田【講義】			
第8回	成人期における健康教育②	河原田【講義】			
第9回	老年期における健康教育①	草場【講義】			
第10回	老年期における健康教育②	草場【講義】			
第11回	精神科領域における健康教育①	松島【講義】			
第12回	精神科領域における健康教育②	松島、舞弓、福浦【演習】			
第13回	集団健康教育の方法	佐藤【講義】			
第14回	公衆衛生における健康教育①	佐藤【講義】			
第15回	公衆衛生における健康教育②	佐藤【講義】			
第16・17回	健康教育演習：計画、指導案の作成	河原田、佐藤【演習】			
第18・19回	健康教育演習：シナリオ、媒体の作成	河原田、佐藤【演習】			
第20・21回	健康教育演習：リハーサル、発表準備	河原田、佐藤【演習】			
第22・23回	健康教育演習：発表	河原田、佐藤、加藤、草場【演習】			
テキスト	必要な資料を適時配布する。				
参考書	講義の中で紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（50%）	定期試験によって、到達目標の達成度を評価する。				
演習評価（40%）	演習への取り組みや発表をポイント化し、評価する。				
受講態度（10%）	講義・演習への出席状況や、課題やレポートの内容をポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題やレポートの返却・フィードバックは、講義の中で適宜行う。				

科目名 ナンバリングコード	看護過程Ⅱ NUS2128MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 姫野 深雪				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、河原田 康貴、孫田 千恵、水落 裕美、新 裕紀子、松島 亜希子、森永 朗子、池上 理由美、石橋 秋奈、他専任教員				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 看護過程Ⅰの学習内容を基盤とし、健康上の問題や障害をもつ人および家族の療養生活の看護について、看護過程の展開を通じて、実践に活用するための方法を学ぶ。</p> <p>到達目標 1) 対象理解のための系統的な情報収集・整理、根拠に基づいたアセスメントができる。 2) 事例において、対象の健康課題に取り組むために、系統的思考プロセスである看護過程の展開ができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第1回	看護過程とゴードンの機能的健康パターン、 演習オリエンテーション	姫野【講義】	看護過程Ⅰの復習、情報の整理	30分	
第2回	ゴードンの機能的健康パターン①(グループワーク)	姫野【講義・演習】	課題(情報の解釈・分析)の実施	60分	
第3回	ゴードンの機能的健康パターン②(全体討議)	姫野【講義・演習】	課題(情報の解釈・分析)の実施	60分	
第4・5回	アセスメント③・④(グループワーク)	担当者全員【演習】	課題(情報の解釈)の修正	60分	
第6回	アセスメント結果の発表・全体討議	姫野【講義・演習】	課題(情報の解釈)の修正	60分	
第7回	看護問題・関連図・全体像(グループワーク)	担当者全員【演習】	課題(関連図等)の実施	60分	
第8回	看護問題・関連図・全体像、全体討議	姫野【演習】	課題(関連図等)の修正	60分	
第9回	看護問題と看護計画	姫野【講義・演習】	課題(看護計画)の実施	60分	
第10回	看護計画の立案(グループワーク)	担当者全員【演習】	課題(看護計画)の修正	60分	
第11回	看護計画の発表、全体討議	姫野【講義】	課題(看護記録)の実施	60分	
第12回	看護記録(SOAP)と看護計画の評価・修正	姫野【講義】	課題の実施	60分	
第13回	周手術期患者の看護過程(情報の整理・アセスメント)	姫野【講義・演習】	課題(アセスメント)の修正	60分	
第14回	周手術期患者の看護過程(関連図・全体像)	姫野【講義・演習】	課題(関連図・全体像)の実施	60分	
第15回	周手術期患者にある患者の看護過程(看護計画立案)・ まとめ	姫野【講義・演習】	課題(計画立案)の実施	60分	
テキスト	江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，ヌーヴェルヒロカワ，2019 リンダ J. カルペニート著，黒江ゆり江監訳：看護診断ハンドブック 第11版，医学書院，2018				
参考書	看護過程Ⅰおよび本科目に関連する科目のテキストを活用する。 永田明ら編集：看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版，メディックメディア，2020				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(50%) レポート(50%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 健康障害を持つ対象の事例について看護過程が展開できること。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートは採点后に個人指導を行い返却する。				

科目名 ナンバリングコード	母子健康支援論 NUS2163MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 田中 佳代、岡村 光子、永田 真理子、竹藤 徳子、専任教員1名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 妊娠・分娩・産褥期にある女性—妊産褥婦—と胎児及び新生児の特性を理解し、母子がその一連の過程において身体的、心理・社会的変化に適応し、パートナー及び家族と共に新たな役割の獲得に向けて支援するための援助方法を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠・分娩・産褥期にある女性—妊産褥婦—と胎児及び新生児の身体的・心理的・社会的特性について説明できる。</li> <li>2) 妊娠・分娩・産褥期にある女性—妊産褥婦—と胎児及び新生児のアセスメントの視点を説明できる。</li> <li>3) 妊娠・分娩・産褥期、新生児期にある母子とそのパートナーである男性及び家族に対する援助の方法について説明できる。</li> <li>4) 正常から逸脱した母子の援助を説明できる。</li> <li>5) 母子の健康援助のための看護過程の特徴を説明できる。</li> </ol>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	Introduction	加藤【講義】	シラバスの確認	15分	
第2回	妊娠期の身体的変化とその経過	永田【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第3回	妊婦・胎児・家族のアセスメントー(1)	永田【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第4回	妊婦・胎児・家族のアセスメントー(2)	永田【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第5回	妊娠期の妊婦と家族のケアー(1)	担当者全員【演習】	企画検討・媒体作成	30分	
第6回	妊娠期の心理・社会的変化とアセスメント	永田【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第7回	妊娠期の妊婦と家族のケアー(2)	担当者全員【演習】	講義資料・テキスト復習	30分	
第8回	妊娠期の異常とハイリスク妊娠の看護	永田【講義】	講義資料・テキスト復習	90分	
第9回	分娩の要素と経過(1)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第10回	分娩の要素と経過(2)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第11回	分娩期の産婦と家族のケア	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第12回	分娩期の異常とケア	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第13回	産褥期の身体的変化と心理・社会的変化	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第14回	褥婦のアセスメントとケアー(1)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第15回	褥婦のアセスメントとケアー(2)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第16回	母乳哺育ー(1)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第17回	母乳哺育ー(2)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第18回	新生児の生理とアセスメントー(1)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第19回	新生児の生理とアセスメントー(2)	加藤【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第20回	新生児のケア	岡村【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第21回	ハイリスク新生児とその家族へのケア	岡村【講義】	講義資料・テキスト復習	30分	
第22回	母性の看護過程ー(1)	担当者全員【演習】	講義資料・テキスト復習	60分	
第23回	母性の看護過程ー(2)	担当者全員【演習】	講義資料・テキスト復習	60分	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 病気がみえる vol.10 産科 メディックメディア				
参考書	講義中に適宜紹介する				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(90%) 受講態度(10%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 出席状況をポイント化し評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	課題に関しては、記述又は口頭でフィードバックを行う。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援論Ⅲ NUS2133MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 原 頼子				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、河原田 康貴、姫野 深雪、孫田 千恵、専任教員				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 終末期の対象および家族を尊重し、安らかで尊厳のある死を迎えるための援助方法を学ぶ。</p> <p>2) 安寧で、希望を持った生き方を支援するための看護者としての態度を形成する。</p> <p>3) 倫理問題を踏まえ、患者・家族がより適切な選択や意思決定ができるための総合的な援助を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) いのちの大切さを学ぶことを通し、看護者の態度を形成する。</p> <p>2) 終末期にある対象や家族の身体・精神・社会状況についてアセスメントし、具体的な援助方法について説明できる。</p> <p>3) 終末期における倫理問題について説明できる。</p> <p>4) スピリチュアルケア、家族へのケア、看取りケアの実際について説明できる。</p> <p>5) 対象や家族の意思を尊重する支援には、多様な場における多職種連携が必要であることが説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回	いのちの大切さ、死生観、死の受容、終末期ケア、緩和ケアの定義、全人的苦痛、看護者の役割	原【講義】	この授業は、いのちの大切さ、より良く生きることを前提とし、死が身近にある人の支援方法を学びます。 1) すべての回に共通する予習として、教科書、資料等を読み、自分で考える時間を持って下さい。 2) 講義の復習は、資料や関連図書を読み、考えたことを身近な人と話し合ってください。	毎回 30分	
第2回	専門的緩和ケア、日常生活を支えるケア、喪失と悲嘆のプロセス	原【講義】			
第3回	身体・精神症状のマネジメント1(呼吸困難、不安・抑うつ)	原【講義】			
第4回	身体・精神症状のマネジメント2(痛みのメカニズム、薬剤の理解、特徴的な痛みの緩和)	原【講義】			
第5回	治療期の緩和ケア(倦怠感のケア、消化器症状のケア)	原【講義】			
第6回	終末期の意思決定支援と倫理的諸問題	姫野【講義】			
第7回	終末期の緩和ケア(人生の最終段階の理解、看取りの意味、臨死期のケア、エンゼルケア:デモンストレーション)	姫野・原【講義・演習】			
第8回	神経難病患者の終末期ケア	桐明【講義】			
第9回	終末期患者を持つ家族へのケア	桐明【講義】			
第10回	緩和ケアの実際、QOLを尊重した看護	特別講義講師【講義】			
第11回	スピリチュアルケア、心不全患者における緩和ケア	原【講義】			
第12回	終末期に必要なケア技術1(身体・心理状態の理解と具体的ケア、コミュニケーション技術、グループによる事例展開)	原【講義】			
第13・14回	終末期に必要なケア技術2(患者・家族の意思決定への支援、ロールプレイ)	原・桐明・河原田・姫野・孫田【演習】			
第15回	終末期ケアまとめ(看護の専門的アプローチ、保健医療福祉連携によるチームアプローチの重要性)、今後の展望	原【講義】			
テキスト	宮下光令 ナーシンググラフィカ成人看護学 緩和ケア 第3版 メディカ出版 2022年				
参考書	①鈴木志津枝・内布敦子:成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ 第2版 ②柏木哲夫・藤腹明子編集:系統看護学講座別巻10、緩和ケア 医学書院				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験・レポート(90%) 受講態度(10%)	到達目標への達成度を正答率で評価する。 演習における課題達成度は、出席状況、レポート提出の有無、記載された内容を評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	内容については授業中にフィードバックし、各自での振り返りを行う。				



科目名 ナンバリングコード	療養生活支援論Ⅳ NUS2142MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 草場 知子				
科目担当者	医学部看護学科 古村 美津代、新 裕紀子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 加齢に伴う心身の変化を理解し、高齢者の健康を維持・回復・増進するための日常生活の援助方法について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年期に起こりやすい健康障害や特徴的な症状について理解し、アセスメントと看護について説明できる。</li> <li>2) 高齢者がその人らしく生活するために、健康状態の保持・増進、予防に向けた看護援助を修得できる。</li> <li>3) 認知症高齢者及び家族への支援について理解し、基本的な援助技術を修得できる。</li> <li>4) 人生の最終段階における高齢者とその家族の意思決定や尊厳を守る支援について説明できる。</li> <li>5) 高齢者と家族の生活を支えるための他職種との連携・協働、看護職の役割について説明できる。</li> </ol>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	<p>地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 高齢者の清潔・整容・衣生活の援助 高齢者の褥瘡予防とスキンケア 高齢者の排泄の援助 高齢者の栄養・食生活の援助 1) 低栄養・脱水症・摂食嚥下障害 高齢者の栄養・食生活の援助 2) 食事援助の実際 高齢者の活動の援助 1) 廃用症候群の予防、歩行・移動の援助 高齢者の活動の援助 2) アクティビティケアの計画立案 高齢者の睡眠・休息の援助 認知症高齢者とその家族の看護 1) アセスメントとケア 2) 活用される療法：ユマニチュード・回想法・ライフレビュー 3) 認知症高齢者とのコミュニケーション 高齢者とその家族の看護 1) 介護家族の理解、アセスメント 高齢者とその家族の看護 2) 家族支援 高齢者のエンドオブライフケア：意思決定支援、看取りの看護 治療を受ける高齢者の看護 1) 薬物療法 治療を受ける高齢者の看護 2) 手術療法、リハビリテーション 治療を受ける高齢者の看護 3) 検査・診察、入院、退院支援 高齢者の感染症対策、災害時の看護 高齢者のリスクマネジメント 事例：生活・療養の場における高齢者の看護 事例：生活・療養の場における高齢者の看護 高齢者ケアにおける他職種連携と看護職の役割、まとめ</p>	<p>草場【講義】 草場【講義】 新【講義・演習】 新【講義・演習】 草場【講義】 草場【講義・演習】 草場【講義・演習】 草場【講義・演習】 草場【講義】 古村【講義】 古村【講義】 古村【講義】 草場【講義】 全員【演習】 草場【講義】 新【講義】 草場【講義】 草場【講義】 新【講義】 草場【講義】 草場【講義】 全員【演習】 草場【講義】</p>	<p>・テキストの 該当項目に ついて予習</p> <p>・実施した講 義・演習内容 についてテキ スト配布資料 で復習</p> <p>・第5・6・8・12・ 14は課題を 課す</p>	各 30分 ～ 60分	
テキスト	堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子：ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害、メディカ出版、2023 堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子：ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際、メディカ出版、2023 水谷信子、水野敏子、高山成子他：最新老年看護学 第3版、日本看護協会出版会、2022（2年次購入）				
参考書	講義の中で紹介する				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%） レポート・受講態度（20%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。</li> <li>・課題の提出状況と内容をポイント化し評価する。</li> <li>・出席状況・参加態度（積極性、意見、質問など）をポイント化し評価する。</li> </ul>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートは採点后に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援論V NUS2173MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位			
科目責任者	医学部看護学科 講師 福浦 善友							
科目担当者	医学部看護学科 舞弓 京子、松島 亜希子 大学病院精神神経診療科 坂本 賢治、轟久 裕貴							
教育目標 到達目標	<p>教育目標 精神障害をもつ対象を理解し、生活上の問題をとらえ、自立に向けての援助について学習する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の権利及び権利擁護について説明できる。</li> <li>2) 安全な治療環境・安全管理について説明できる</li> <li>3) 精神疾患の症状、経過について説明できる。</li> <li>4) 精神疾患の治療（薬物療法・精神療法・作業療法・m-ECT）、看護師の役割について説明できる。</li> <li>5) さまざまな精神疾患の回復過程に応じた看護援助について説明できる。</li> <li>6) セルフケア能力をアセスメントできる。</li> <li>7) 精神領域における法律について理解、説明できる。</li> <li>8) 精神障害をもつ人が活用できる社会資源・地域支援について説明できる。</li> <li>9) 家族をアセスメントし、家族支援について考察できる。</li> <li>10) 回復（リカバリー）に向けての多職種連携を通し、看護師の役割を理解する。</li> </ol>							
授業計画								
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間				
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回	権利擁護と処遇・安全管理 精神障害をもつ人の抱える症状 薬物療法と看護 精神療法と看護 作業療法 総合失調症患者の看護 気分障害（抑うつ障害群・双極性障害等）患者の看護 児童・思春期患者の看護 物質関連障害（アルコール・薬物依存症など）患者の看護 強迫性障害患者およびてんかん患者の看護 解離性障害患者およびパーソナリティ障害患者の看護 不安障害（社交不安障害・パニック障害等）患者の看護 睡眠障害の看護・リエゾン精神看護 家族システム・家族療法等 身体症状症および関連症（変換症等）患者の看護 摂食障害患者の看護 精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等 社会復帰・社会参加への支援（退院支援）・多職種連携と看護の役割 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用 ケアマネジメント・リカバリー・レジリエンス・ストレンクスなど 対象理解と看護介入	福浦【講義】 福浦【講義】 福浦【講義】 舞弓【講義】 坂本【講義】 福浦【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 松島【講義】 松島【講義】 舞弓【講義】 松島【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 福浦【講義】 松島【講義】 福浦【講義】 福浦【講義】 轟久【講義】 福浦【講義】 福浦【演習】	各回の資料 やノートを 自分の言葉 で表現し、 整理してお く。	各回 30分				
テキスト	萱間真美、野田文隆編：精神看護学Ⅰ 心の健康と地域包括ケア改訂第3版，2022，南江堂 萱間真美、野田文隆編：精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版，2022，南江堂							
参考書	必要時資料配布							
成績評価								
方法（割合）	基準							
筆記試験（100%）	定期試験（マークシート）で評価する。							
課題（レポート等）に対するフィードバック	特にレポートは課さない。							

科目名 ナンバリングコード	小児療養生活支援論 NUS2152MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 藤好 貴子				
科目担当者	医学部看護学科 益守 かづき、水落 裕美 大学病院看護部 坂田 理絵（新生児集中ケア認定看護師）				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 子どもの健康障害に伴う徴候や症状を理解し、健康上の問題をもつ子どもと家族に対する看護援助について学ぶ。</p> <p>到達目標 1) 病児の看護の基本となる概念と援助方法について説明することができる。 2) 子どもに特有な疾患および小児期に多い症状について説明することができる。 3) 子どもの安全なケア環境について説明することができる。 4) 小児看護の特殊技術について説明することができる。 5) 子どもの健康問題を解決するために、看護過程を展開することができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	健康障害を持つ子どもの看護	藤好【講義】	課題①	1時間	
第2回	慢性期にある子どもと家族の看護（免疫・アレルギー）	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第3回	慢性期にある子どもと家族の看護（呼吸器疾患）	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第4回	慢性期にある子どもと家族の看護（循環器疾患）	益守【講義】	講義後復習	20分	
第5回	小児看護技術①（バイタルサイン測定、身体計測）	水落【講義】	講義後復習	20分	
第6回	地域で生活している健康問題を抱える子どもと家族の看護（外来看護）	益守【講義】	講義後復習	20分	
第7回	小児看護技術②（経管栄養・与薬、固定・抑制）	水落【講義】	講義後復習	20分	
第8回	隔離・活動制限が必要な子どもと家族の看護（感染症・腎疾患）	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第9回	先天的な問題を持つ子どもと家族の看護（染色体異常、代謝・内分泌）	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第10回	小児看護技術③（輸液管理・検体採取・浣腸）	水落【講義】	講義後復習	20分	
第11回	小児看護技術④（侵襲の大きい検査・鎮静時の看護）	水落【講義】	講義後復習	20分	
第12回	痛みのある子どもと家族の看護（消化器疾患）	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第13回	手術を受ける子どもと家族の看護	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第14回	外傷のある子どもと家族の看護	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第15回	心身障害のある子どもと家族の看護	益守【講義】	講義後復習	20分	
第16回	事例を活用しての子どもと家族の看護計画の展開	藤好【講義】	課題②	3時間	
第17回	災害時における子どもと家族の看護、リスクマネジメント	益守【講義】	講義後復習	20分	
第18回	低出生体重児の看護	坂田【講義】	講義後復習	20分	
第19回	エンド オブ ライフケアにおける子どもと家族へのかかわり	藤好【講義】	講義後復習	20分	
第20回	子どもと家族の倫理的問題	益守【講義】	講義後復習	20分	
第21回	小児看護技術⑤ 演習（赤ちゃんとの触れ合い体験・導入）	藤好・益守・水落【演習】	演習後復習	20分	
第22回	小児看護技術⑥ 演習（赤ちゃんとの触れ合い体験）	藤好・益守・水落【演習】	課題③	1時間	
第23回	小児看護技術⑦（赤ちゃんとの触れ合い体験・看護計画の振り返り）	藤好【講義】	講義後復習	20分	
テキスト	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 2022年				
	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 2022年				
	中村友彦編集 ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版 2022年				
参考書	講義の中で提示する				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） 課題（30%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の達成度を筆記試験の正答率で評価する。</li> <li>・課題①③において、子どもと家族の体験や状況が明文化され、考察できていること。</li> <li>・課題②において、病気の子どもの特性に合わせた、情報収集とアセスメント、看護上の問題点の抽出、看護計画が具体的に提案されていること。</li> </ul>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題は講義終了後採点し、返却する。				

科目名 ナンバリングコード	在宅看護論Ⅱ NUS3183MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子、森永 朗子 非常勤講師 氷室 秀高 (医療法人社団 秀和会) 非常勤講師 小野 幸代 (在宅療養サポートセンター 久留米)				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 在宅看護活動を展開するための基本的知識と支援方法について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 在宅における看護の対象者を、生活者として捉える必要性や重要性について述べるができる。</p> <p>2) 在宅における日常生活援助方法・医療処置管理のあり方について述べるができる。</p> <p>3) 在宅療養者の終末期看護や意思決定の支援のあり方について述べるができる。</p> <p>4) 在宅におけるチーム医療及び多職種連携・協働における看護師の役割について説明できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>地域療養を支える制度とその活用</p> <p>在宅療養を支える基本的な技術①</p> <p>在宅療養を支える基本的な技術②</p> <p>在宅における看護過程展開① (事例と演習課題の提示)</p> <p>在宅における対象別看護 ①: 日常生活支援</p> <p>在宅療養者の食の支援 (訪問歯科診療と多職種連携)</p> <p>在宅における対象別看護 ②: 医療的ケア</p> <p>在宅における医療機器の特徴と管理</p> <p>在宅における看護過程展開② (演習課題について)</p> <p>在宅における終末期看護</p> <p>在宅ケアにおける多職種の連携・協働</p> <p>特別講義「視線入力訓練アプリ EyeMoT の活用方法～アセスメントと意思表出支援～ 豊かなコミュニケーションの広がりを目指して</p> <p>在宅への退院移行支援</p> <p>在宅における小児障害児の看護</p> <p>在宅における看護過程展開③ まとめ 実習に向けて</p>	<p>渡邊【講義】</p> <p>森永【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>氷室【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>渡邊 森永【演習】</p> <p>小野【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>特別講義講師【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>渡邊【講義】</p> <p>渡邊・森永【演習】</p>	<p>在宅看護論Ⅰの復習</p> <p>※毎回テキストと配布した資料による予習と復習</p> <p>※第6回は訪問歯科診療と歯科衛生士の講義、口腔ケア・嚥下訓練について予習して受講する。</p> <p>※第4回では看護過程の演習課題を提示する。(看護過程Ⅱの講義内容の理解のもと) 第9回までに各自課題に取り組み、提出する。第15回の講義内で演習課題に対する質問を受け理解を深める。</p>	<p>毎回予習と復習で各30分～60分</p>	
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2022年版)				
参考書	①日本在宅ケア学会 在宅ケア学第1巻～第6巻 株式会社ワールドプランニング 2015年 ②押川真喜子 監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス初版 (株)インターメディカ 2016年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (70%)	筆記試験を実施し到達目標の達成度を正答率で評価する。				
レポート (15%)	在宅における特徴を理解し、看護過程 (一部) を展開しているかを評価する。				
受講態度 (15%)	授業へ積極的に参加する姿勢・毎回の講義内容について具体的な感想や質問等をポイント化し評価する。				
課題 (レポート等)	に対するフィードバック	講義の中で解説する。採点后実習中に返却する。			

科目名 ナンバリングコード	地域看護活動論 PHN2113MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 佐藤 祐佳				
科目担当者	医学部看護学科 徳澤 麻梨子、小島 一将				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 地域の特性に基づいた地域保健活動を展開することができる。 到達目標 1) 人々の生活と健康を客観的に捉え、地域の特性と人々の生活を関連づけながら捉えることができる。 2) 地域における地区組織活動の意義を理解し、地区組織への支援方法を理解できる。 3) 学校保健・産業保健の対象者の特性に基づいた活動の展開を理解できる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	地域診断の意義・目的	佐藤【講義】	シラバスの確認	20分	
第2回	地域診断の方法	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第3回	地域診断の実際1；対象の捉え方	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第4回	地域診断の実際2；情報収集	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】			
第5回	地域診断の実際3；情報収集	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第1・2回の復習	30分	
第6回	地域診断の実際4；情報の分析（アセスメント）	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第3回まで完成させる	45分	
第7回	地域診断の実際5；情報の分析（アセスメント）	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第4回まで完成させる	45分	
第8回	地域診断の実際6；健康課題抽出	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第5回まで完成させる	45分	
第9回	地域診断の実際7；健康課題の発表と討議	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	発表のための準備	45分	
第10回	地域保健活動の目的，地域組織育成・支援	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第11回	精神保健の課題と支援	小島【講義】	該当テキストの予習	20分	
第12回	精神保健活動の実際；社会復帰に向けた支援	小島【講義】	該当テキストの予習	20分	
第13回	障害者（児）の健康課題と保健指導	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第14回	難病保健医療福祉の動向；難病対策	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第15回	難病患者の健康課題と支援	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第16回	産業保健の労働衛生管理体制	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第17回	産業保健活動の健康課題1；職業性疾病、作業関連疾患	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第18回	産業保健活動の健康課題2；健康管理、メンタルヘルス	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第19回	産業保健活動の健康課題3；過重労働、地域連携	佐藤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第20回	児童生徒の発育発達と学校保健	徳澤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第21回	学校保健活動の展開	徳澤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第22回	養護教諭の活動の実際1；健康診断、健康相談、保健指導、感染症予防	徳澤【講義】	該当テキストの予習	20分	
第23回	養護教諭の活動の実際2；事故防止、保健学習、学校保健委員会、地域の関係機関との連携	徳澤【講義】	該当テキストの予習	20分	
テキスト	中谷芳美 他編 標準保健師講座3 公衆衛生看護活動 第4版 医学書院 2022 (2年次購入)				
参考書	上野昌江 和泉京子 編 公衆衛生看護学 第3版 中央法規 佐伯和子 編 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版 医歯薬出版株式会社				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(70%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
レポート(30%)	地域診断の情報整理・健康課題の抽出でき、地域の特性を考察できる。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	レポートは、採点后返却を行い講義時間内にて解説を行う。				

科目名 ナンバリングコード	地域看護技術演習 PHN3215MN8	選択科目	4 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 佐藤 祐佳				
科目担当者	医学部看護学科 重松 由佳子、椛 勇三郎、徳澤 麻梨子、小島 一将				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 地域看護診断および地域看護活動の演習を通して、健康に影響する諸要因を理解し、看護の立場から課題や問題を把握し、その解決方法を考え実施することで、基本的な地域看護活動の展開方法を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 既存の資料から地域看護診断に必要な情報を収集し、地域の健康に影響を与えている要因とその要因間の関連及び導き出した地域の健康課題について説明できる。</p> <p>2) 地域保健活動における保健指導事例の援助プロセスを展開し、専門的支援を要する住民の特性をふまえた支援を実践し、その事例における保健指導の意義について説明できる。</p> <p>3) 健康教育において、対象の特性をふまえた、地域住民の自己管理能力を引き出し、必要な行動を実践する動機づけ、教育的働きかけの技術を実践できる。</p> <p>4) 対象の特性に応じた保健指導や健康教育の教材をパソコンにて作成できる。また、地域の特性について、既存の統計データ等をわかりやすくパソコンにて作成できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回	<p>地域看護技術演習のすすめ方</p> <p>健康教育1；対象集団の理解</p> <p>健康教育2；企画書・実施案の立案</p> <p>健康教育3；企画書・実施案の立案</p> <p>健康教育4；シナリオおよび媒体の作成</p> <p>健康教育5；シナリオおよび媒体の作成</p> <p>健康教育6；プレリハーサルの実施</p> <p>健康教育7；デモストレーションの実施（発表）</p> <p>健康教育8；デモストレーションの実施（発表）</p> <p>保健指導ロールプレイ1；対象の分析</p> <p>保健指導ロールプレイ2；保健指導計画の立案</p> <p>保健指導ロールプレイ3；保健指導計画の立案</p> <p>保健指導ロールプレイ4；保健指導の実施（発表）</p> <p>保健指導ロールプレイ5；保健指導の実施（発表）</p> <p>保健指導ロールプレイ6；保健指導の実施（発表）</p> <p>実習地の地域看護診断1；情報収集</p> <p>実習地の地域看護診断2；情報収集</p> <p>実習地の地域看護診断3；情報の統合と分析</p> <p>実習地の地域看護診断4；情報の統合と分析</p> <p>実習地の地域看護診断5；健康課題の把握</p> <p>実習地の地域看護診断6；健康課題の把握</p> <p>実習地の地域看護診断7；地域看護診断概要報告会（発表）</p> <p>実習地の地域看護診断8；地域看護診断概要報告会（発表）</p>	科目責任者・ 科目担当者 全員 【講義・演習】	演習課題ごとに事前に提示された資料の予習	各 30 分 ただし、 発表前は 60 分	
テキスト	保健指導で高血圧パラドックスの解消へ 東京医学社 2020 年, 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第 2 版 医歯薬出版株式会社 2018				
参考書	こどもノート・からだノート ウェルクル				
成績評価					
方法（割合）	基準				
発表内容・レポート（80%） 学習態度（20%）	ルーブリックを活用した発表内容および学習態度の自己評価・学生同士での他者評価・教員評価、及び提出物等をすべて合計して評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題（レポート等）は、評価コメントを講義時間内に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習I NUS3434MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 座学での知識・技術を用いて急性の経過をたどる成人期・老年期の対象を全人的に理解する。</li> <li>2) 生命の危機的状態から回復に向けた生活を支援するための看護実践能力を習得する。</li> </ol> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生命の危機状態にある対象（成人・老年期）および家族へのケアに必要な態度を身につけることができる。</li> <li>2) 対象（成人・老年期）の発達課題をふまえた急激な健康状態の悪化について理解することができる。</li> <li>3) 急激な健康状態の悪化による生体反応を理解し、回復に向けた看護が実践できる。</li> <li>4) 対象（成人・老年期）と家族がどのように危機的状態について受け止めているかを理解し、不安の緩和に向けた援助を実践することができる。</li> <li>5) 身体機能の変化や喪失が生活様式に及ぼす影響について理解し、対象（成人・老年期）および家族が受容するための援助ができる。</li> <li>6) 危機的状況にある対象（成人・老年期）へのチーム医療と保健医療福祉の連携について学ぶ。</li> </ol>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習 (予習・復習等)	必要時間		
2023年9月～ 2024年3月 3週間（135時間） /1グループ 久留米大学病院 ・急性期病棟 ・手術室 ・中央滅菌材料部 ・救命救急センター	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習スケジュール 1日目：実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション 2日目以降：病棟または救命センターでの実習</li> <li>2. 実習方法 1) 原則として患者1名を受け持ち、看護師や教員、実務者である看護師からの指導を受け看護過程を展開する。 2) 立案した計画の中で学生が行える看護を明確にし、看護師および教員の指導を受けながら実践する。 3) チームケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実施し、適切に報告・連絡・相談する。 4) 日々の実習を振り返るカンファレンスでは、指導にあたった看護師など実務者にも同席して頂き、積極的に自身の意見を発言し、メンバーの意見を聴き問題解決を行う。 5) 実務者が行っているカンファレンスに参加し、チーム医療の在り方について学ぶ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活援助技術Ⅰ、Ⅱ、診療に伴う援助技術の既習の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨むこと。</li> <li>2) 受け持ち患者に対する経過記録を毎日記載し、翌日の計画を立案して臨むこと。</li> </ol>	<input type="checkbox"/> 毎日の経過記録60分程度 <input type="checkbox"/> 翌日の計画立案30分程度 <input type="checkbox"/> 必要に応じて、受け持ち患者ケアに付随する病態生理、看護技術の学習、あるいは看護過程の展開作成に60分程度		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 林直子、佐藤まゆみ（編）：急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 改定第2版 2021年</li> <li>2) 佐藤まゆみ、林直子（編）：急性期看護Ⅱ 救急看護 南江堂 改訂第2版 2021年</li> <li>3) 野崎真奈美 他（編）：成人看護技術 南江堂 2022年</li> <li>4) 医療情報科学研究所：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 2021年</li> </ol>				
参考書	系統看護学講座 成人看護学 2呼吸器、3循環器、5消化器、7脳・神経、11アレルギー・膠原病・感染症、医学書院				
成績評価					
方法（割合）	基準				
総括評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日々の学習（実習）活動や実習記録・レポートなどのポートフォリオ、カンファレンスなどを通して総括評価とする。</li> <li>2) 実習目標（内容）に対する到達度評価とする。</li> </ol>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	指導の必要性に応じてフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習Ⅱ NUS3435MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	3単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 原 頼子				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、河原田 康貴、姫野 深雪、専任教員2名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 慢性疾患を持つ対象を全人的に理解し、対象のセルフマネジメントを支えるための看護実践能力を修得する。</p> <p>到達目標 1) 対象の発達課題を踏まえて、慢性疾患を持つ対象の身体・心理・社会的側面を理解することができる。 2) 対象の健康障害に応じた療養生活援助が実践できる。 3) 慢性疾患をもつ対象およびその家族に対し、セルフマネジメントを促す援助が実践できる。 4) 慢性疾患をもつ対象に対する保健医療福祉の連携と社会資源活用の必要性が理解できる。 5) 専門職者として必要とされる態度を身につけることができる。</p>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2023年9月～ 2024年3月 3週間（135時間） /1グループ 久留米大学病院 慢性期病棟 外来 医療連携センター	1) 久留米大学病院で3週間の実習を行う。 2) 原則として患者1名を受け持ち、その患者に必要な日常生活援助や自己管理を促す援助等を通し、看護過程を展開する。 3) 実習期間内に、医療連携センター実習と、外来実習を行う。 4) 学内実習において、各自で事例を振り返り、実習まとめの報告会では、慢性期看護の学びを共有する。 5) 病棟で開催される多職種の実務者カンファレンスに参加し、チーム医療の在り方について学ぶ。	1) 療養生活支援論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、 フিজカルアセスメント技術、看護過程Ⅰ、Ⅱ、 健康教育方法論、家族看護論の 学習内容を十分に復習して臨んで 下さい。 2) 生活援助技術Ⅰ、Ⅱ、診療に伴う 援助技術の既修の学習内容を復 習し、学内において看護技術を積 極的に習熟して臨んで下さい。	毎日の経過記録 60 分程度 翌日の看護計画 30 分程度		
テキスト	鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：慢性期看護、改訂第3版、南江堂 宮下光令 ナーシンググラフィカ成人看護学 緩和ケア 第3版 メディカ出版 2022年 野崎真奈美ほか：成人看護学 成人看護技術、改訂第3版、南江堂				
参考書	鈴木志津枝・内布敦子：成人看護学、緩和・ターミナルケア看護論、第2版 スーヴェルヒロカワ				
成績評価					
方法（割合）	基準				
総括評価	1) 日々の学習（実習）活動や実習記録・レポートなど、カンファレンスなどを通して総括評価とする。 2) 実習目標（内容）に対する到達度評価とする。 ＊ただし、出席3／4以上に満たないものは評価対象とならない。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	各担当教員よりフィードバックする。				



科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習Ⅲ NUS3474MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>療養生活支援論Ⅴで学習した精神看護における知識・技術・態度を統合して、精神に障害のある人および家族を理解し、個別的な看護援助を実践できる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神の障害をもつことへの理解ができる。</li> <li>2) 患者の権利擁護に努め、信頼関係を構築し、援助することができる。</li> <li>3) 患者との関係から生じる相互作用から、自己理解を含む対人理解について理解できる。</li> <li>4) 受け持ち患者の看護過程が展開できる。</li> <li>5) 主な精神科治療とその目的が説明でき、看護師の役割について理解できる。</li> <li>6) 精神科での事故防止の対策について説明できる。</li> <li>7) 精神科外来を受診する患者の治療過程を理解できる。</li> <li>8) デイケアでのスタッフの役割が理解できる。</li> </ol>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2023年9月～ 2024年3月 2週間（90時間） /1グループ 久留米大学病院 のぞえの丘病院	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1事例を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2) 1週目は看護計画立案、2週目は実施・評価し、修正する。</li> <li>3) 日常生活の援助プログラムの他、各種ミーティングに参加する。</li> <li>4) プロセスレコードにより、看護場面を再構成し、評価する。</li> <li>5) 外来実習では、通院患者の状況を査定し、看護師の役割を理解する。</li> <li>6) デイケアでは、プログラムに参加し、メンバーとの交流をもち、援助を考案する。</li> <li>7) 実習先で実務者の指導を得る。</li> </ol>	<p>実習 3日目：問題関連図</p> <p>実習 5日目：看護計画</p> <p>実習 6日目：プロセスレコード</p> <p>実習 10日目：実習記録まとめ</p>	毎日 2時間 程度		
テキスト	こころの生涯発達（1年次）、療養生活支援論Ⅲ（3年次）で使用したテキスト、プリント類				
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 酒井隆、宮本聖也他編；こころの治療薬ハンドブック第14版 星和書店 2022</li> <li>2) 姫井昭男著；精神科の薬がわかる本第4版 医学書院 2019</li> </ol>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	<p>情報収集・アセスメント、問題関連図、看護計画、毎日の計画、経過記録、プロセスレコード、外来・デイケア実習、治療と看護、患者との関わりに関して、実践力を総合的に評価する。</p> <p>時間・規則の厳守、言葉づかい、身だしなみ、提出物の期限の厳守、自主性、報告・連絡・相談、カンファレンスに臨む態度から評価する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	実習課題 提出された課題に対しては、個別指導を行っている。				

科目名 ナンバリングコード	母子健康支援実習 NUS3464MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、岡村 光子、永田 真理子、竹藤 徳子、専任教員1名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある母子とその家族の身体的、心理・社会的特性を理解し、健康の保持増進と役割の獲得ができるための看護の基礎的能力を養う。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象を全人的にとらえ、その特性を説明できる。</li> <li>2) Wellnessの視点から対象の看護上の問題を把握し、問題解決のための援助方法を説明できる。母子とその家族に対する保健医療福祉活動チームの中での看護の役割を認識し、連携及び調整のあり方を説明できる。</li> <li>3) 自己の看護実践や体験した看護の実際をとおして、母子とその家族に対する看護のあり方について考察し、説明できる。</li> </ol>				
授業計画					
実習期間	実習内容	準備学習（予習・復習等）			必要時間
2023年9月～ 2024年3月  2週間（90時間） /1グループ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 久留米大学病院総合周産期母子医療センター産科・不妊部門、産科外来で、実務者の指導を得て2週間の実習を行う。</li> <li>2) 妊産褥婦を対象に、学生2名で1事例を1週間程度受け持ち、看護過程を展開し、看護実践を行う。</li> <li>3) 新生児を対象に、1週間程度、新生児の胎外生活適応・生理的变化に関わる観察・看護実践（清潔ケアや哺乳など）を行う。</li> <li>4) 産科外来において1日、妊婦健診・保健指導の見学・実践、妊婦との関わりをとおして、妊婦の状況を把握し、看護上の問題点を考える。</li> <li>5) 実習で遭遇した母子とその家族の看護に関わるテーマでのカンファレンスを、事前準備を行い、グループメンバーと討議し、周産期における母性看護のあり方について考察を深める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊産褥婦、新生児の身体的・心理社会的特性について、講義資料を基に予習を行い、実習に臨む。</li> <li>2) 実習で実践する看護技術を技術チェックリストで確認し、予習を行い、実習に臨む。</li> <li>3) 受け持ち事例への毎日の看護目標・計画、新生児・妊婦に対する毎日の学習目標を立案し、それを基に実践した看護を振り返り、翌日の目標設定に繋げる。</li> </ol>			<p>毎日の記録 60分程度</p> <p>翌日の看護計画 30分程度</p>
テキスト	森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論、医学書院、2021				
参考書	<p>医療情報科学研究所編：病気がみえる Vol.10 産科 第4版、メディックメディア</p> <p>北川真理子編：看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 第2版、メヂカルフレンド社、2015</p>				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 以下の2つの項目が満たされていることが評価の条件である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習時間の1/4以上の欠席がないこと</li> <li>②指定された全ての記録物が期限内に提出されていること</li> </ol> </li> <li>2) 実習目標に対する到達度をポイント化し、評価する。</li> </ol>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	提出された記録・課題に対して、個別指導を行っている。				

科目名 ナンバリングコード	小児療養生活支援実習 NUS3453MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 藤好 貴子、水落 裕美				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 発達過程にある子どもをひとりの人間として統合的にとらえ、社会の一員としての子どもと家族の健康ニーズを把握し、健康レベルに応じた適切な看護を実施するために、必要な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成長発達の視点から子どもをアセスメントできる。</li> <li>2) 健康問題を抱える子どもの全体像（病態生理、身体的精神的社会的問題、治療などを含む）を説明できる。</li> <li>3) 健康問題を抱える子どもの看護上の問題点、問題解決のための援助方法を説明できる。</li> <li>4) 様々な状況下にいる子どもの健康レベルに応じた支援、子どもの発達やセルフケア向上のための支援を説明できる。</li> <li>5) 子どもの権利を尊重した看護、小児看護の役割を説明できる。</li> <li>6) 小児看護における倫理的問題について倫理原則などを活用して検討することができる。</li> </ol>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
2023年9月～ 2024年3月  2週間（90時間） /1グループ  久留米大学病院 小児科病棟 小児科外来 NICU/GCU わんぱく保育園	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習スケジュール 1日目：実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、看護技術演習 2日目～：A・Bグループに分かれて、病棟とNICU/GCU・外来・保育園で実習する</li> <li>2. 実習方法 1) 病棟実習：1名の子どもを受け持ち、看護師の指導のもと看護過程を展開する。 ・入院加療が必要な子どもの特性や家族の状況をアセスメントし、看護上の問題点を抽出する。 ・子どものQOL向上、セルフケアの向上や発達への支援を基盤に看護介入を実施する。</li> <li>2) 保育所実習：保育士の指導のもと、1日子どもの保育に関わる。</li> <li>3) NICU/GCU実習：先天性疾患を抱える児への看護、低出生体重児への看護などの実際を見学するとともに、看護師の指導のもとGCUで子どもへの看護（哺乳や清潔ケアなど）を実施する。</li> <li>4) 小児科外来実習：処置や検査、診察場面などでの看護の実際を見学するとともに、看護師の指導のもと身体計測や処置場面での子どもへの看護を実施する。</li> <li>5) 実習最終日：学内にて「子どもの権利を尊重する看護」に関する倫理カンファレンスを実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習を通して、子どもの最善の利益、子どもの権利を遵守する看護とは何かを考えること。</li> <li>2) 病気の子どもや家族が体験していることを考えること。</li> <li>3) 子どもや家族へのかかわりを具体的に考えること。</li> <li>4) 自分の体調管理を行いながら、実習に関する予習復習をすること。</li> <li>5) 看護技術に関する予習は必須とする。</li> </ol>	<p>実習後 4時間/日 程度</p> <p>週末・祝日 5時間/日 程度</p>		
テキスト	「生涯発達看護概論」「こころの生涯発達」「疾病治療論 小児疾患」等で使用したテキスト、配布資料 「小児生活支援論」「小児療養生活支援論」など小児看護関連科目で使用したテキスト、配布資料				
参考書	石黒彩子・浅野みどり編：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図、医学書院				
成績評価					
方法（割合）	基準				
到達目標への達成度（80%） 実習への取り組み・態度（20%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目標への到達度を目標ごとにポイント化し、評価する。（病棟実習、保育所実習・NICU/GCU実習・外来実習、学内日の課題）</li> <li>・日々の記録物や実習場所ごとの提出物より、実習内容が具体的に目的に沿って明文化されているか、対象理解や状況理解を深め、看護が検討されているかなどを評価する。</li> <li>・課題への取り組み状況、カンファレンスへの参加状況を参考に、取り組みや態度を評価する。</li> </ul>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	提出された課題に対して個別指導を行っている。				

科目名 ナンバリングコード	高齢者生活支援実習 NUS3443MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	4単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、新 裕紀子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>老年期にある対象を総合的に理解し、多様な看護の場における高齢者とその家族の健康レベルに応じた適切な看護を実践できる基礎的能力を身につける。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、ライフステージおよび健康課題について説明できる。</li> <li>2) 高齢者およびその家族の健康問題をとらえ、その人らしさや強みを活かし、個別に応じた看護を実践できる。</li> <li>3) 保健・医療・福祉の専門職の役割と連携・協働における看護職の役割について説明できる。</li> <li>4) 高齢者の尊厳の保持、QOLの維持向上及び自立を支援するための保健・医療・福祉における社会資源とその活用について説明できる。</li> <li>5) 豊かな人生を経てきた先輩である高齢者とのかかわりを通して老年観を養うことができる。</li> </ol>				
授業計画					
実習期間・場所	授業の内容	準備学習(予習・復習等)	必要時間		
2023年9月～ 2024年3月 4週間(180時間) 介護老人保健施設または介護老人福祉施設 デイケアまたはデイサービスセンター 久留米市生涯学習センター 地域包括支援センター 看護小規模多機能型居宅介護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スケジュール 1～3週目：介護老人福祉施設または介護老人保健施設の施設実習(デイケア又はデイサービス実習2日、生涯学習センター1日の実習を含む) 4週目：地域包括支援センター1日 看護小規模多機能型居宅介護2日</li> <li>2. 実習方法 1) 施設実習では1名の高齢者を受け持ち、教員・看護師の指導のもと情報収集、情報の整理・分析より健康問題を明らかにする。健康問題に対して、その人らしさや強みを活かした看護を実施する。 2) デイケアまたはデイサービスに参加し、在宅療養中の要支援・要介護者の支援やアクティビティケアを実施する。 3) 生涯学習センターの実習では、サークル活動に参加して地域の高齢者との交流を通し、高齢者の社会参加について学ぶ。 4) 地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センター、看護小規模多機能型居宅介護の役割を学ぶ。 5) 最終日は学内で報告会を実施する。実習グループごとに学修成果(予防から看取りまでを通して4週間の学び・高齢者の尊厳を守るケア・老年観等)を発表し全体討議を行う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の発達課題、高齢者の身体・心理・社会的特徴、認知機能障害と行動心理症状および認知症高齢者の看護、介護保険の仕組みとサービス、高齢者の生活援助技術、アクティビティケアの意義、自己の老年観、看護小規模多機能型居宅介護の概要について予習を行い実習に臨む。</li> <li>・受け持ち高齢者に対する経過記録を毎日記録し、翌日の計画を立案して臨む。</li> <li>・受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習及び復習</li> </ul>	<p>毎日の経過記録60分程度、翌日の計画立案30分程度。受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習各60分程度。</p>		
テキスト	これまでの講義で使用したテキスト・資料および参考書を十分に活用する。				
参考書	新たな課題・学習内容については、文献等を活用すること。				
成績評価					
方法(割合)	基準				
実習内容(80%) 実習態度(20%)	到達目標の達成度を予習・復習状況、看護の実施状況・評価および記録より評価する。 出席状況・実習態度・チェックワーク等を評価する。				
課題(レポート等)	に対するフィードバック	実習記録およびカンファランス等でコメントする。			

科目名 ナンバリングコード	在宅生活支援実習 NUS3484MN5	必修科目	3年次 2学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子、森永 朗子				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 地域で健康障害をもちながら生活する人々および家族を理解し、在宅看護活動を展開するための基本的な知識、技術、態度を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅療養者の健康問題と生活および療養環境を関連づけてとらえ、実際の援助活動を通して看護の役割について述べるができる。</li> <li>2) 在宅療養者の健康問題を総合的にとらえ、行われている個別性に応じた具体的な援助方法の根拠を説明することができる。</li> <li>3) 訪問看護ステーションの運営・機能・役割および在宅療養を支えるための社会制度とその活用方法について説明することができる。</li> <li>4) 地域包括ケアにおける関連機関・関連職種との連携の実際を学び、連携の必要性および看護師の果たす役割について説明することができる。</li> </ol>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習(予習・復習等)	必要時間		
2023年9月～ 2024年3月 2週間(90時間) /1グループ 訪問看護 ステーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習初日;オリエンテーション、実習目標の確認、事前学習(GW)</li> <li>2) 施設実習 期間:6～7日間(第1週の帰校日及び祭日を除く) 時間:8:30～16:00(実習施設により異なる) [内容] 初日:施設オリエンテーション、訪問看護師同行開始 ① 受け持ち療養者の看護過程の展開 ② 訪問看護師の療養者に関する支援(訪問、連絡調整、ケア会議等)の見学 ③ 訪問看護ステーションの管理・運営・役割に関する調査 ④ 訪問看護師からの指導助言</li> <li>3) 実習最終日 ① 発表会:実習施設の特性・地域の特性・行った看護の振り返りについて発表する。 ② まとめ:記録整理・課題レポート作成 16:30 記録提出</li> </ol>	在宅生活支援実習にあたって、臨床看護や社会福祉制度及び在宅看護論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識が必要となりますので、復習して臨むようにしてください。	実習事例の訪問前の計画、訪問後の記録など 1日2時間程度		
テキスト	なし				
参考書	押川真喜子 監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス初版 (株) インターメディカ 2016年 正野逸子・本田彰子 編 関連図で理解する 在宅看護課程 第1版 (株) メヂカルフレンド社 2015年				
成績評価					
方法(割合)	基準				
実習内容(70%) 実習態度(30%)	到達目標の達成度の評価:実習記録等により評価する。 看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢(積極的に学ぶ姿勢)、出席状況等により評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック			作成経過の中でその都度フィードバックする。		

科目名 ナンバリングコード	総合実習 NUS4498MN7	必修科目	4年次 1学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、佐藤 祐佳、椛 勇三郎、加藤 陽子、恒松 佳代子、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、徳澤 麻梨子、前野 里子、水落 裕美、三次 貴大、岡村 光子、永田 真理子、新 裕紀子、松島 亜希子、池上 明由美、山田 泰子、石橋 秋奈、小島 一将、森永 朗子、草場 万裕子、竹藤 徳子、他専任教員				
教育目標 到達目標	<p>教育目標 保健医療福祉活動チームにおいて看護師が果たす役割を学び、看護をマネジメントできる基礎的能力を身につけることができる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護体制を理解し、看護チームの一員としての看護を実践する。</li> <li>2) 看護倫理に基づき患者や家族のニーズに応じた看護を実践する。</li> <li>3) 看護実践における記録の重要性を理解し、チームの一員としての責務を果たす。</li> <li>4) 臨床における医療安全管理と看護管理について理解できる。</li> <li>5) 保健医療福祉活動チームにおける、健康上の問題解決のための包括的アプローチとサポートシステムについて理解する。</li> <li>6) 看護者としての自己の課題を明確化することができる。</li> </ol>				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）		必要時間	
2023年6月12日（月）～2023年6月23日（金） 2週間（90時間） 久留米大学病院 久留米大学医療センター	病棟の指導者と担当教員による指導を受けながら、看護チームの一員として、複数の患者を担当し、看護を実践する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総合実習は、4年間のまとめとしての実習になる。3年次までのポートフォリオを振り返り、自己の課題を明らかにして、課題克服のため積極的かつ主体的に実習に臨む。</li> <li>2) 看護管理実習における貴重な体験が、より効果的な学習につながるよう、看護管理の科目を選択し、事前学習を深める。</li> <li>3) 学生生活最終の実習がより充実した実習になるように総合実習の目的・目標を熟読し、準備学習、既習の看護技術の復習を行い臨む。</li> <li>4) 実習病棟の指導看護師との事前打ち合わせによって明らかになった課題に取り組んでおく。</li> </ol>		<p>毎日の経過記録 60分程度</p> <p>翌日の計画立案 30分程度</p> <p>必要に応じ受け持ち患者のケアに付随する病態、看護技術の学習 60分程度</p>	
テキスト	指定したテキストなし				
参考書	実習内容を充実させるために、今まで活用した教科書や講義時の配布資料などを活用すること。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%）	教育目標 / 到達目標への到達度をポイント化し、評価する。				
実習態度（20%）	実習中の態度、カンファレンスへの参加度などにより評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	記録物は返却しないが、学生と実習内容を振り返る。				

科目名 ナンバリングコード	地域生活支援実習 PHN3416MN8	選択科目	4年次	実習	5単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、柊 勇三郎、徳澤 麻梨子、小島 一将				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域（職域、学校含む）で生活する人々（個人・家族・集団・組織）への健康支援活動（疾病予防、健康の維持・増進、健康回復）を通して、公衆衛生看護活動における保健師の役割・機能を理解する。</li> <li>2) 保健師活動の全体像を捉え、保健活動の基礎を修得する。</li> </ol> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆衛生看護活動が展開される様々な場（行政、職域、学校など）の特性を把握し、行政機関・法人・民間諸施設の位置づけ、役割・機能について述べるができる。</li> <li>2) 地域で生活する対象（個人・家族・集団・組織）を統合的に捉え、それぞれの対象（個人・集団）をアセスメントすることができる。</li> <li>3) 生活習慣や環境から、潜在的・顕在的健康課題を予測し、その予防や解決に向けての健康増進活動や施策化、システム化について検討するための分析ができる。</li> <li>4) 地域で展開される保健活動の支援技術（個別、集団、組織へのアプローチ）の基礎を修得することができる。</li> <li>5) 公衆衛生看護活動を展開する上で個人・家族・集団・組織に必要な社会資源や関連職種との連携、社会資源の開発・発掘、施策化、システム化について検討することができる。</li> </ol>				
実習計画					
実習期間	実習内容	準備学習(予習・復習等)	必要時間		
2023年6月～11月 5週間(225時間)	<p>実習展開方法：人数：1施設2～4名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習施設 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保健所、市町村</li> <li>② 上記①以外の施設；企業・学校等。</li> </ol> </li> <li>2) 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 施設実習前：学内オリエンテーション、健康教育指導案作成、地区踏査、地域看護診断、事業の事前学習</li> <li>② 実習最終日：総括（グループワーク・プレゼンテーション）</li> </ol> </li> <li>3) 実習施設実習内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 対象の健康課題の調査・分析（地域看護診断）</li> <li>② 保健活動への参加・理解</li> <li>③ 保健活動の実施（保健指導・家庭訪問・健康教育等）</li> <li>④ 健康をまもるしくみづくり・協働活動への参加・理解 実務者からの指導助言を含む</li> </ol> </li> <li>4) 実習時間：原則、当該実習施設の執務時間に準ずる。</li> </ol>	<p>実習計画表に基づき、日々の保健事業について事前学習をして臨む。</p> <p>毎日の具体的目標を前日に記録に記載して実習に臨む。</p> <p>日々のカンファレンスで課題になったことはその日の内に復習する。</p>	<p>その日のうちに問題解決できるよう予習・復習合わせて毎日1時間程度行う。</p>		
テキスト	こどもノート・からだノート ウェルクル				
参考書	1・2・3・4年次に地域看護関連科目で使用したテキスト				
成績評価					
方法(割合)	基準				
実習到達度(60%) 実習態度(40%)	<p>実習記録類（実習記録様式3～様式12まで）まとめレポートはルーブリック評価を行う。</p> <p>実習態度はルーブリック評価を行う。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	<p>記録物は施設実習の作成経過時にその都度フィードバックする。</p> <p>記録提出後は原則返却しない（大学側で焼却）。</p>				

科目名 ナンバリングコード	研究Ⅱ NUS2193MN5	必修科目	3年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 梶 勇三郎				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 看護における研究の位置づけを理解し、実践の問題を解決する基礎的研究能力を養う。</p> <p>2) 看護研究における倫理を理解し、看護研究のプロセスに関する知識を習得する。</p> <p>3) 既存の研究論文を分析的に読み、批判的に思考する方法を習得する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 看護における研究の位置づけが説明できる。</p> <p>2) 看護研究プロセスを説明できる。</p> <p>3) 看護研究における倫理について説明できる。</p> <p>4) 看護研究の代表的なデザインを説明できる。</p> <p>5) データ分析方法を説明できる。</p> <p>6) 批判的に文献を検討できる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	看護研究とは 看護研究の動向・研究と実践の関係	益守・医学図書館職員【講義】	課題1：関心のある領域の論文を文献検索後選択する	30分	
第2回	看護研究プロセス	益守【講義】	講義後復習	30分	
第3回	看護研究における倫理	益守【講義】	講義後復習	30分	
第4回	質的研究方法の概要	益守【講義】	質的研究論文の選択 / 講義後復習	60分	
第5回	質的研究の論文を読む	益守【演習】	課題2：質的研究論文を読み、文献カードを作成する	60分	
第6回	質的研究：研究方法（対象者の選定、面接方法、依頼方法など）	益守【講義】			
第7回	質的研究：データ分析、結果の公表	益守【講義】	講義後復習	15分	
第8回	量的研究方法の概要	梶【講義】	課題3：量的研究論文を読み、文献カードの作成する	60分	
第9回	量的研究の論文を読む	益守【演習】			
第10回	量的研究：研究方法（対象者の選定、尺度検討、調査項目検討など）、分析方法、結果の公表	梶【講義】			
第11回	質的研究の論文を批判的に読む	益守【演習】	講義後復習	30分	
第12回	量的研究の論文を批判的に読む	益守【演習】	講義後復習	30分	
第13回	研究計画書作成の基礎知識	益守【講義】	課題4：研究計画書を作成する		
第14回	研究計画書作成（1）	益守【演習】			
第15回	研究計画書作成（2）	益守【演習】			
テキスト	南裕子編集：看護における研究 第2版 日本看護協会出版会 2016年				
参考書	講義の中で提示する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（50%） 課題（50%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標の達成度を正答率で評価する。</li> <li>課題への取り組み状況をポイント化して評価する。</li> </ul> <p>課題1：提示した方法を用いて関心領域の原著または研究論文を選択する。</p> <p>課題2/3：論文を批判的に読み込み、文献カードとしてまとめる。</p> <p>課題4：研究計画書（研究背景、研究目的、研究意義、研究方法）を作成する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	採点后返却する。計画書については、グループごとに採点内容を説明する。				



科目名 ナンバリングコード	研究Ⅲ NUS4794MN7	必修科目	4年次 1学期・2学期	講義・演習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 益守 かづき、原 頼子、重松 由佳子、古村 美津代、嵯峨 堅、加悦 美恵、崎浜 智子、舞弓 京子、桐明 あゆみ、佐藤 祐佳、椛 勇三郎、加藤 陽子、恒松 佳代子、松本 悠貴、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、前野 里子、徳澤 麻梨子、他専任教員3名				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究Ⅰ・Ⅱの学修を基盤にして、研究プロセスを実践し、科学的思考力や判断力、意志決定力を養うとともに、看護現象を分析し、研究的解決策を追究する能力を習得する。</li> <li>2) 研究に関わる倫理的な問題を、実践を通して理解し、看護専門職としての判断力を養う。</li> <li>3) 看護研究の成果を発表する能力を養う。</li> </ol> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護現象から研究テーマを焦点化することができる。</li> <li>2) テーマに沿った研究計画を立てることができる。</li> <li>3) 研究計画に基づき、倫理的に配慮しながらデータを収集することができる。</li> <li>4) 得られたデータを分析し、結果として論じることができる。</li> <li>5) 結果に基づき、既存の文献を活用して論理的に考察を論じることができる。</li> <li>6) 研究論文としてまとめ、発表することができる。</li> </ol>				
授業計画					
授業の内容		担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (学生全員)</li> <li>2. 研究テーマ・希望教員の提出</li> <li>3. 指導教員決定・研究Ⅲ要項配布</li> <li>4. 指導教員による指導 研究テーマに関わる学習・文献講読を行い、テーマを焦点化する指導教員と日時を調整し、ゼミ形式や個別指導等で、一連の研究プロセスについての指導を受ける</li> <li>5. 論文作成・発表・論文提出 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 論文作成に関する説明</li> <li>2) 卒業論文発表会に関する説明 論文題目の提出 抄録の印刷と提出</li> <li>3) 卒業論文発表会 パワーポイントを用い、口演発表</li> <li>4) 論文提出</li> </ol> </li> </ol>		田中【講義】  田中【講義】 担当者全員【演習】   田中【講義】 田中【講義】  担当者全員【演習】	研究Ⅰ、研究Ⅱを十分に復習し必要な資料を再読する。	自分自身の理解度に応じて必要な時間をとること	
テキスト	必要時、資料を配布する。各指導教員の紹介によるテキストを適宜、活用すること。				
参考書	南裕子編集：看護における研究，第2版，日本看護協会出版会，2017 横山美江編：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第3版 医歯薬出版株式会社，2017				
成績評価					
方法 (割合)			基準		
態度 (研究計画書作成、データ収集等の積極性など) (20%) 研究計画 (20%) 研究発表 (20%) 最終の研究論文 (40%) 上記割合を基準に研究プロセスを通して総合的に評価する。			到達達成度をポイント化し評価する。		
課題 (レポート等) に対するフィードバック		課題提示の際に説明する。			

科目名 ナンバリングコード	看護管理 NUS3195MN7	必修科目	4年次 1学期	講義	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	大学病院看護部 山本 都江、川野 佐由里、四方田 暁美 大学病院医療安全管理部 早川 晴美				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>看護専門職として必要な看護サービスの管理システムならびに医療安全と質の保証のための看護システムと管理の知識と技術について修得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護サービスの管理システムと看護管理の原則について説明することができる。</li> <li>2) 看護職能団体における看護倫理と社会的責任について説明することができる。</li> <li>3) 組織・チームにおけるリーダーシップと自己の役割・能力を発揮・拡大できる方法を説明することができる。</li> <li>4) 医療安全・危機管理（リスクマネジメント、医療事故、感染予防対策など）について説明することができる。</li> <li>5) 看護管理上の問題をとらえ、問題を解決する方策を理解し検討し説明することができる。</li> <li>6) 看護ケアの拡大及び看護の質向上を図るため、専門性と実践能力を高める方法と果たす役割について説明することができる。</li> </ol>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第1回	1) 看護管理の基本となるもの	古村【講義】	既習の授業・ 実習時資料や 文献等にて予 習  第1～7回ま での復習：毎 回、授業後に レポート提出。	毎回： 予習 30分・ 復習 30分	
第2回	2) 看護管理の基礎	山本【講義】			
第3回	3) 病棟における看護管理の実際	四方田【講義】			
第4回	4) 医療安全と管理・リスクマネジメント	早川【講義】			
第5回	5) 感染制御における看護管理とチーム医療、グローバルヘルスケア	川野【講義】			
第6回	6) 看護管理者に求められる能力	古村【講義】			
第7回	7) 看護職とキャリア	古村【講義】			
第8回	8) 看護と経営、制度	古村【講義】			
	医療と経済、看護に関わる医療・介護制度、看護管理に関する法律				
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	看護管理概説，日看協出版会，ナースィング・グラフィカ看護管理，メディカ出版 等を参照				
成績評価					
方法（割合）	基準				
試験（80%） 出席状況・態度（20%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。</li> <li>・講義の出席および講義態度・レポートをポイント化して評価する。</li> </ul>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	必要時レポート課題を課し、評価後に返却する。				

科目名 ナンバリングコード	看護総合演習 NUS4299MN7	必修科目	4年次 2学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 原 頼子				
科目担当者	医学部看護学科 舞弓 京子、桐明 あゆみ、佐藤 祐佳、柊 勇三郎、加藤 陽子、草場 知子、*河原田 康貴、*姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、*孫田 千恵、前野 里子、水落 裕美、三次 貴大、岡村 光子、永田 真理子、新 裕紀子、松島 亜希子、*山田 泰子、池上 亜由美、森永 朗子、石橋 秋奈、小島 一将、草場 万祐子、竹藤 徳子、他専任教員  *主担当者				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 看護総合演習では、看護実践能力の向上を目指し、臨地実習で未履修の技術及び身体侵襲を伴う技術について自己の課題を明確にし、演習を行なう。</p> <p>2) 自らの看護技術を向上させるための学習方法を見出し、生涯自己研鑽を続けることの必要性を再認識し、看護を追求する態度を育成する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 技術の水準レベルを踏まえ、現在の自己看護技術を振り返り、課題を明確に述べることができる。</p> <p>2) 事例のアセスメントから、優先順位や安全に留意した援助計画を立案し、シミュレーションやロールプレイにつなげることができる。</p> <p>3) 根拠に基づき、看護技術を選択し、技術を統合させ、過程を踏みながら的確に実践することができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>ガイダンス</p> <p>技術演習のための準備と事前学習</p> <p>3回から8回について</p> <p>患者の状態に合わせて、的確に看護技術を選択し実践・評価する統合能力獲得に向けて、グループで1) 2) について討議しまとめる</p> <p>1) 実践能力向上に必要な知識について</p> <p>2) 問題解決能力向上のための事例展開</p> <p>9回から14回について</p> <p>グループに分かれ1) ~ 3) の演習を実施する。</p> <p>1) 呼吸・循環・排泄を整える技術</p> <p>2) 薬物療法の技術(末梢静脈路確保及び輸液の管理)</p> <p>3) 事例患者に必要な教育支援(ロールプレイ)</p> <p>演習振り返りと今後の課題の明確化</p>	専任教員が担当となり、各自の担当講義・演習を実施する。 【講義・演習】	<p>1) 課題の明確化、授業全体に対する準備ポートフォリオに基づき、4年間の実習(技術項目)の振り返りを行い、自己の課題を明確化する。</p> <p>2) 事前学習、練習技術項目に関する学習および技術練習を行う。(実習室を利用できる)</p> <p>3) 振り返りレポートや実施した技術内容の振り返りを行い、今後の課題を明確化する。</p>	各演習 前後 30分	
テキスト	特定しないが、参考資料を配布する。				
参考書	野崎真奈美ほか：成人看護学 成人看護技術、改訂第3版、南江堂 木田圭亮 ナースが知りたい心不全のキホン メディカ出版 ナーシングスキル (Web) : <a href="https://nursingskills.jp/">https://nursingskills.jp/</a>				
成績評価					
方法(割合)	基準				
演習内容の自己評価・他者評価、小テスト、課題、レポート内容(90%)と出席態度(10%)	原則として2/3以上の出席がないと合格しない、講義・演習への遅刻の場合は減点する。技術チェック、統合技術内容の自己評価と学生同士での他者評価、小テスト、提出物、参加態度等をすべて合計して評価する。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	課題や技術内容に関しては、毎回まとめ時にフィードバックを行う。				

科目名 ナンバリングコード	がん看護学 NUS3196MN8	選択科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 原 頼子				
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪 大学病院看護部 副枝 恵美				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) がんに関する最新の知識を身につけ、がんと共に生きる人やその家族に対する理解を深め、今後のがん看護について探求する。</p> <p>2) 事例の展開を通し、倫理的態度、死生観を養う。</p> <p>到達目標</p> <p>1) グループで実習や授業での学びを振り返り、事例演習を通し、がん患者における様々な状況における具体的な援助方法を述べるができる。</p> <p>2) がんに関する最新の知識や文献を通し、学びあうことで、看護者としての知識を深めることができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	がん看護の概念 がん患者の特徴、治療(ゲノム)の理解、がん看護に適用される理論とモデル(セルフマネジメント、自己効力など)	原【講義】	1) 予習 今まで授業や実習で使用した、がんや終末期医療に関する文献や資料を再読する。 2) 復習 講義資料の振り返り	毎回 30分	
第2回	最新のがん治療と症状マネジメント1 化学治療(分子標的薬治療含む)	姫野【講義】			
第3回	最新のがん治療と症状マネジメント2 放射線治療(粒子線治療含む)	副枝【講義】			
第4回	がん看護における倫理調整	姫野【講義】			
第5・6回	がん看護の専門性1 倫理カンファレンス演習	原・姫野【演習】			
第7回	がん看護の専門性2 補完・代替療法、AYA世代の特徴と援助、多職種によるチームアプローチ	原【講義】			
第8回	これからのがん看護に必要なこと 成人期がん患者の特徴と援助、就労支援	原【講義】			
テキスト	鈴木久美、林直子、佐藤まゆみ 看護学テキストNICE がん看護 南江堂 2021				
参考書	小松浩子、中根 実 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 2022				
成績評価					
方法(割合)		基準			
筆記試験・レポート(90%) 受講態度(10%)		到達目標への達成度を正答率で評価する。 演習の課題達成度は、出席状況、レポート提出の有無、記載された内容を評価する。			
課題(レポート等)に対するフィードバック		内容については授業中にフィードバックし、各自での振り返りを行う。			

科目名 ナンバリングコード	多職種連携教育 NUS3285MN7	必修科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、新 裕紀子、 専任教員1名 医療センター医療連携推進室 丸山 紀子 大学病院看護部 物部 千穂、西村 知子、平塚 奈希				
教育目標 到達目標	教育目標 地域社会の変化に伴う保健・医療・福祉の動向を踏まえ、専門職連携の重要性と看護職の果たす役割について理解する。 到達目標 1) 多職種連携における専門職のそれぞれの専門性と役割について説明することができる。 2) 多職種連携における連携と協働の重要性について説明することができる。 3) 多職種連携コンピテンシーについて説明できる。 4) 保健・医療・福祉の動向を踏まえ多職種連携の中で看護職に求められる役割や責務について説明することができる				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回 第2回	地域社会の動向と専門職連携の重要性 医看合同グループワーク	古村【講義】 古村・姫野・渡邊・福浦・ 藤好・新【演習】	講義 予習 予習 事前課題	20分 60分	
第3回 第4回 第5回 第6回	第3回～6回各事例（成人・老人・精神・ 小児）についてグループワーク（①情報の 分析と整理②他職種との連携と看護師の役 割について） 事例 高齢者の退院調整 がん患者の退院調整 精神に障害のある人の事例 小児の事例	古村・姫野・渡邊・福浦・ 藤好・新【演習】	各事例についての病態・ 社会資源について予習 GW 後レポート提出	60分 60分 60分 60分	
第7・8回	多職種連携と看護職の役割について 発表 とまとめ（各事例）	丸山・西村・物部・平塚・ 栗屋昌樹（久留米地域 支援センター）・姫野・ 渡邊・福浦・藤好・専任 教員・新・古村【演習】	予習 課題5- レポート提出 「地域包括ケアシステムに おける看護職の役割」	60分	
テキスト	必要時、資料を配布する。事例検討の際、必要な教科書・参考書、資料・文献等を持参し参考にする。				
参考書	田村由美：新しいチーム医療 改訂版 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門、看護の科学社、2018				
成績評価					
方法（割合）	基準				
試験（50%） レポート・参加状況（50%）	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標の達成度を知識・思考・判断力など定期試験の正答率で評価する。</li> <li>レポート（課題1～5）で評価する。</li> <li>講義・演習の出席および参加状況（積極性・意見・質問など貢献度）を評価する。</li> </ul>				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題レポート：一部は採点し返却する。				

科目名 ナンバリングコード	最先端の医療と看護 NUS3197MN8	選択科目	4年次 1学期	講義・演習	1単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 松本 悠貴 先進漢方治療センター 恵紙 英昭 総合周産期母子医療センター 木下 正啓 医学部附属臨床検査専門学校 棚町 千代子 大学病院看護部 杉島 寛、三重野 智志、平塚 奈希				
教育目標 到達目標	教育目標 日本における先進医療の現状を踏まえ、看護の果たすべき役割について学ぶ。 到達目標 1) 先端医療の概要を説明できる。 2) 先端医療における看護の必要性を理解できる。 3) 先端医療を受ける患者・家族の特徴を理解し、看護の方法・看護のあり方を説明できる。 4) 先端医療に関わる多職種との連携方法について説明できる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	検査機械、検査技術の開発	棚町・加藤【講義】	配布資料にて 復習を行う。	30分	
第2回	ロボット支援手術の実際	三重野・加藤【講義】		30分	
第3回	先進漢方治療と看護	恵紙・加藤【講義】		30分	
第4回	特定行為にかかわる看護実践	杉島・加藤【講義】		30分	
第5回	遠隔による新生児蘇生	木下・加藤【講義】		30分	
第6回	子どもの発達段階に合わせたプレパレーション	平塚・加藤【講義】		30分	
第7・8回	新しい看護の創造	加藤・松本【演習】		30分	
テキスト	講義資料を配布する。				
参考書	特になし				
成績評価					
方法(割合)	基準				
筆記試験(60%) レポート(40%)	到達目標に対する達成度を、試験問題に対する正答率で評価する。 課題を提示し、レポートの提出を課す。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	採点后、必要に応じてフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	地域看護管理論 PHN3114MN8	選択科目	4年次 1学期	講義	2単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 小島 一将				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>地域のニーズや特性に合わせた地域ケアマネジメントである公衆衛生看護管理について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 公衆衛生看護管理の理念、目的、対象と方法、看護管理の機能について説明することができる。</p> <p>2) 健康危機管理時に必要な公衆衛生看護管理について説明することができる。</p> <p>3) 地域ケアシステムと地域ケアコーディネートの必要性と構築活動について事例を踏まえて説明することができる。</p>				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第1回	公衆衛生看護管理の理念・目的・機能、保健師の役割、統括保健師、マネジメント、リーダーシップ	重松【講義】	シラバスを確認	講義前： テキスト を読み (20-30 分)、疑問 点を明ら かにし臨 む。終了 後：15-20 分用語の 復習をし て知識を 確実す る。	
第2回	地区管理・情報管理・組織運営管理・事業業務管理	重松【講義】	公衆衛生看護管理構成要素		
第3回	事例管理、予算編成・予算管理、人事管理人材育成	重松【講義】	公衆衛生看護管理構成要素		
第4回	健康危機管理・リスクコミュニケーション	重松【講義】	防災・災害時の保健活動		
第5回	地域の特性をいかした活動1	重松【講義】	事例検討		
第6回	地域の特性をいかした活動2	重松【講義】	事例検討		
第7回	地域の特性をいかした活動3	重松【講義】	事例検討		
第8回	地域の特性をいかした活動4	重松【講義】	児童虐待防止		
第9回	事例管理の実際：児童虐待のリスクマネジメント	重松【講義】	結核感染予防対策		
第10回	事例管理の実際：感染症のリスクマネジメント	重松【講義】	感染症予防対策		
第11回	事例管理の実際：精神障害者のリスクマネジメント	小島【講義】	精神障害者への地域支援		
第12回	保健所の地域看護管理1	重松【講義】	災害時の支援		
第13回	保健所の地域看護管理2	重松【講義】	保健所管轄市町村の特性		
第14回	保健所の地域看護管理3	重松【講義】	保健所管轄市町村の特性		
第15回	保健所の地域看護管理4	重松【講義】	保健所管轄市町村の特性		
テキスト	なし				
参考書	<p>標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院</p> <p>平野かよ子 編：最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論、メヂカルフレンド社</p> <p>井伊久美子 編：保健師業務要覧：日本看護協会出版会、最新版</p> <p>岡本玲子 編：公衆衛生看護活動I 医歯薬出版株式会社</p> <p>国民衛生の動向</p> <p>岡本玲子 編：地域の強みを高める公衆衛生看護技術 医歯薬出版株式会社</p>				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
定期試験 (70%) 受講態度 (30%)	到達目標の到達度を正答率と筆記で評価する。 公衆衛生看護管理の中で何を管理していく必要があるのか・保健所管轄市町村の特性を把握しているのかを評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	第15回にレポートの全体的な講評を行い、返却はしない。				

## 2023年度オフィスアワー（看護学科専任教員）

教員名	職名	曜日・時間	連絡先	備考
益守 かづき	教授	月曜日・16:00～18:00	内線：3949 メール：masumori@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
原 頼子	教授	水曜日・17:00～18:00	内線：3948 メール：hara01@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
田中 佳代	教授	水曜日・17:00～18:00	内線：3935 メール：m2a2k2i2@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
重松 由佳子	教授	月曜日・17:00～18:00	内線：3947 メール：shigematsu_yukako@med.kurume-u.ac.jp	
古村 美津代	教授	水曜日・17:30～18:30	内線：3931 メール：furumura@med.kurume-u.ac.jp	
嵯峨 堅	教授	月～水曜日・17:00～19:00	内線：3933 もしくは内線：3140 メール：saga@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
加悦 美恵	教授	水曜日・17:00～18:00	メール：kaetsu@med.kurume-u.ac.jp	
崎浜 智子	教授	未定		
舞弓 京子	准教授	月曜日・17:30～18:30	内線：3930 メール：mayumi27@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
桐明 あゆみ	准教授	水曜日・17:00～19:00	メール：kiriake_ayumi@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
佐藤 祐佳	准教授	水曜日・12:00～13:00	メール：yuka0503@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
椛 勇三郎	准教授	火～木曜日・17:30～19:00	内線：3945 メール：kabal208@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
跡上 富美	准教授	水曜日・17:00～18:00	内線：3946 メール：atogami_fumi@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
加藤 陽子	准教授	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3953 メール：wasaki_youko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
恒松 佳代子	准教授	未定		
松本 悠貴	准教授	未定		
草場 知子	講師	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3932 メール：kitomo@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
河原田 康貴	講師	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3951 メール：y_kawaharada@med.kurume-u.ac.jp	
姫野 深雪	講師	水曜日・12:00～13:00	内線：3941 メール：miyuki@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
福浦 善友	講師	月～金曜日・8:30～17:00	内線：3951 メール：fukuura_yoshitomo@med.kurume-u.ac.jp	
渡邊 理恵	講師	水曜日・17:30～18:30	内線：3929 メール：watanabe_rie@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
藤好 貴子	講師	月～金曜日・16:00～18:00	内線：3928 メール：fujiyoshi_takako@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
孫田 千恵	講師	月～木曜日・12:00～13:00	内線：3941 メール：magota_chie@med.kurume-u.ac.jp	
徳澤 麻梨子	講師	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3928 メール：tateishi_mariko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
前野 里子	講師	水曜日・12:00～13:00	内線：3942 メール：maeno_satoko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
水落 裕美	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3942 メール：eguchi_yumi@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
三次 貴大	助教	火曜日・12:00～13:00	内線：3906 メール：miyoshi_takahiro@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
岡村 光子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3929 メール：okamura_mitsuko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
永田 真理子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：nagata_mariko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
新 裕紀子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：arata_yukiko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
松島 亜希子	助教	木曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：matsushima_akiko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
山下 寛子	助教	未定		
山田 泰子	助教	火・水曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：yamada_yasuko@kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
池上 明由美	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：ikegami_ayumi@kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
石橋 秋奈	助教	火～木曜日・12:00～13:00	内線：3943 メール：ishibashi_akina@kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
森永 朗子	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：morinaga_akiko@med.kurume-u.ac.jp	事前予約を希望
小島 一将	助教	月～金曜日・12:00～13:00	内線：3940 メール：kobata_isshou@kuume-u.ac.jp	事前予約を希望
草場 万裕子	助教	火・水曜日・12:00～13:00	内線：3944 メール：kusaba_mayuko@kuume-u.ac.jp	
竹藤 徳子	助教	未定		

※未定部分及び変更に関しては掲示にてお知らせします。

※内線電話への連絡は、代表電話番号（0942）35-3311へ掛け、電話交換手に内線番号を告げ取り次いでもらうこと。



2023年度オフィスアワー（看護学科専任教員以外の科目責任者）

科目	職名	教員名	受付方法	連絡先	備考
音楽と癒し	非常勤講師	梅崎 京子	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
文学	文学部講師	藤本 晃嗣	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
スポーツ科学Ⅰ	人間健康学部教授	右田 孝志	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
スポーツ科学Ⅱ	非常勤講師	畦山 与里子	質問等をメールで受付。	メール: uneco.3901@gmail.com	
倫理学	非常勤講師	土持 貴志	質問等をメールで受付。	メール: ttmt195@gmail.com	
比較文化論	非常勤講師	永吉 守	質問等をメールで受付。	メール: mnagayoshi@gmail.com	
教育学	文学部講師	小田 茜	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
心理学	文学部助教	石田 有紀	質問等をメールで受付。	メール: ishida_yuki@kurume-u.ac.jp	
国語表現法	文学部教授	大庭 卓也	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
英語Ⅰ	外国語教育研究所教授	島村 恭輔	質問等をメールで受付。	メール: shimamura_kyosuke@kurume-u.ac.jp	
英語Ⅱ	非常勤講師	藤原 恵子	質問等をメールで受付。	メール: t210fujiharak@std.mii.kurume-u.ac.jp	
オーラル イングリッシュⅠ	文学部教授	アーサー ミアマン	質問等をメールで受付。	メール: arthur_meerman@kurume-u.ac.jp	
	非常勤講師	ラツ デヴィッド	質問等をメールで受付。	メール: latz david2@gmail.com	
オーラル イングリッシュⅡ	外国語教育研究所教授	キャサリン ブラウン	質問等をメールで受付。	メール: brown@std.mii.kurume-u.ac.jp	
	外国語教育研究所准教授	シャロット ムラカミ	質問等をGoogle Classroomで受付。		
ドイツ語	文学部准教授	大場 はるか	授業終了後に質問等の時間を設けるとともに、質問等をメールで受付。	メール: oba_haruka@kurume-u.ac.jp	
中国語	外国語教育研究所教授	李 偉	質問等をメールで受付。	メール: ri_i@kurume-u.ac.jp	
韓国語	外国語教育研究所准教授	李 熙卿	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
社会学	文学部特任教授	中西 吉則	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
生活と経済	非常勤講師	矢野 生子	質問等をメールで受付。	メール: yano@sun.ac.jp	
くらしと法	法学部准教授	藺田 史	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
くらしと サイエンス	医学部自然科学教室(化学)教授	東元 祐一郎	授業終了後に質問等の時間を設けるとともに、質問等をメールで受付。	メール: higashiy@med.kurume-u.ac.jp (東元)	
	医学部自然科学教室(物理学)教授	長澤 真樹子		メール: nagasawa_makiko@med.kurume-u.ac.jp (長澤)	
	医学部自然科学教室(生物学)准教授	大沼 雅明		メール: mohnuma@med.kurume-u.ac.jp (大沼)	
人間工学	非常勤講師	松尾 重明	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
情報学	医学教育研究センター准教授	柏木 孝仁	質問等をメールで受付。	メール: takahito@med.kurume-u.ac.jp	
統計・推計学	病院経営室准教授	宮本 貴宣	質問等をメールで受付。	メール: t_miy@med.kurume-u.ac.jp	
からだの構造と機能Ⅰ	医学部看護学科教授	嵯峨 堅	授業終了後に質問等の時間を設ける。	嵯峨 堅 : 内線3933、もしくは内線3140 鷹野 誠 : 内線3464、直通0942-31-7543 中島 明子 : 内線3464	※内線電話への連絡は、代表電話番号(0942)35-3311へ掛け、電話交換手に内線番号を告げ取り次いでもらうこと。
からだの構造と機能Ⅱ	医学部看護学科教授	嵯峨 堅	授業終了後に質問等の時間を設ける。	中島 則行 : 内線3464 嶋 雄一 : 内線3153、直通0942-31-7541 太田 啓介 : 内線3153 中村 悠 : 内線3153 村井 恵良 : 内線3448、直通0942-31-7542	
からだの構造と機能Ⅲ	医学部看護学科教授	嵯峨 堅	授業終了後に質問等の時間を設ける。	嵯峨 堅 : 内線3933、もしくは内線3140 田平 陽子 : 内線3140 } 直通0942-31-7540 范 綾 : 内線3140	
からだの代謝	医学部医化学講座講師	原田 二郎	質問等をメールで受付。	メール: jiro_harada@med.kurume-u.ac.jp (原田) メール: tsukaguchi_mai@med.kurume-u.ac.jp (塚口)	
ボランティア活動	文学部助教	土井 幸治	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
臨床心理学	非常勤講師	高松 真理	質問等をメールで受付。	メール: mt60true@gmail.com	
家族社会学	非常勤講師	藤田 智子	質問等をメールで受付。	メール: tomkofujita@scs.kyushu-u.ac.jp	
社会福祉と社会保障	文学部教授	片岡 靖子	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
微生物と感染	医学部感染制御学講座教授	渡邊 浩	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
免疫	医学部免疫学講座教授	溝口 充志	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
病理学	医学部病理学講座教授	矢野 博久	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
臨床薬理	医学部薬理学講座教授	西 昭徳	授業終了後に質問等の時間を設ける。		
臨床栄養	医療センター栄養室副部長補佐	坂口 美紀	授業終了後に質問等の時間を設ける。		

※変更に関しては揭示にてお知らせします。



インド・ミテイラー地方の民族画“スーリヤムッキーの木”

(ガンガー・デーヴィー画、ミテイラー美術館長谷川時夫の転載許可済み)  
“命の木 Tree of Life” (中近東の絨毯の図柄) は看護学科のシンボル・ツリーである。それは人間成長を象徴としている。看護学の4大メタパラダイム：人間、環境・健康・ケアの、人間を樹木と言い換えて考えてみると興味ふかい。